

濟遠號		馨城號		島海艦	
砲數	人員	砲數	人員	砲數	人員
通常砲	將校	通常砲	將校	通常砲	將校
速射砲	下士卒	速射砲	下士卒	速射砲	下士卒
合計	合計	合計	合計	合計	合計
二、八〇〇	一六六	一四九	一三三	九六三	一〇〇
鋼		木		鐵	

し。南桑田郡、北桑田郡、船井郡、何鹿郡、天田郡の五郡は京都府に管轄せらる。山國なれば地勢概ね峻険にして。稻作に適する平野少なし。山嶽には、鬼神の住みたりといふ傳説によりて有名なる大江山あり。丹後の境に峙ちて。頗る急峻を極む。山頂には酒頭童子の棲みしと傳ふる窟屋あり。其他播磨、但馬に跨れる三國岳あり。丹後、若狹に跨れる丸山あり。攝津の境に愛宕山あり。いづれも峻険し。川には保津川、和知川、佐治川あり。保津川は源を近江の境に發し。南流し東流して山城に入る。下流は即ち桂川なり。和知川は源を若狹の境に發し。福知川、音無瀬川と名をかへつ。北流して丹後に入る。すなはち由良川の上流なり。佐治川は源を南境に發し。西流して播磨に入る。下流は即ち加古川なり。保津川の南岸にある龜岡町は。もと松平氏の城市にして。戸數千六百餘。京都市へは六里餘にて達す。龜岡の西九里餘の處に篠山町あり。西北十五里餘の處に福知山町あり。篠山の西四里餘の處に柏原町あり。何れも國內屈指の都邑なり。

物産の重なるものは。
 栗 牛 茶 煙草 黑豆
 百合 蜂蜜 生糸 松茸 炭
 の類なり。

第二章 丹後

丹後の國は東若狹に接し。南は丹波に隣し。西は但馬に連なる。而して北は一帶日本海に面せり。面積七十餘方里。之を分ちて加佐郡與謝郡、中郡、竹野郡、熊野郡の五郡とし。京都府の管治に屬す。海岸の屈折多きは。北海岸に珍しきばかりにて。其中央に凹入せるを與謝海といひ。成生岬と鷲岬とは東西相對して灣口を扼せり。與謝海中更に三つの小灣を生ず。其西なるを宮津灣といひ。中なるを由良灣といひ。東なるを舞鶴港とす。此等の沿海地方は。やゝ平坦なれども。其他は地勢概ね峻険にして且地味礫質なる故米作に適せず。山嶽は。鷲岬の西部に成相山あり。其北には碓山あり。丹波の境には八丈嶽あり。由良灣の南に丹後富士と呼ぶる、由良嶽あり。いづれもさまで高峻ならず。

鎮南號		鎮西號		島海艦	
砲數	人員	砲數	人員	砲數	人員
通常砲	將校	通常砲	將校	通常砲	將校
速射砲	下士卒	速射砲	下士卒	速射砲	下士卒
合計	合計	合計	合計	合計	合計
三三〇	四四〇	三三〇	四四〇	九六三	一〇〇
鋼		鋼		鐵	

富士艦		計	
砲數	乗組人員	砲數	乗組人員
通常砲	將校	通常砲	將校
速射砲	下士卒	速射砲	下士卒
合計	合計	合計	合計
三四	三一	四〇	一七〇
二五	二二五	七六	一三三九
二五	二五六	二七、七一	一、五〇九
二七、七一	二七、七一	三三、九九五	
三三、九九五		一〇四、六二八	
一〇四、六二八		一五四、九四二	
一五四、九四二		一六九	
一六九		三七一	
三七一			

總計(軍艦數)……四十三

川のやゝ大なるは由良川のみ。源を丹波に發し。(前章を参照せよ) 國の東部を北流して由良灣に注ぐ。舞鶴港は與謝海中の東部にあること前にいへり。内部の廣さは東西一里餘、南北二里にして。港内水極めて深く。大船の碇繋に至便なり。近年軍港に指定せられたれば。遠からずして海軍鎮守府の設置を見ることなるべし。

宮津港は舞鶴の西六里にあり。特別貿易港にして。大小の船舶常に港内に輻湊せり。市街は二千餘の戸數を有し。國內第一の都會なり。

三景の一なる天橋立は。宮津港の對岸にあり。音讀して「てんけう」とも呼ぶ。一沙洲の海中に斗出すること三十町。其上には無數の青松を交へて立ち並ぶ。遠く之を望めば一帯の橋を渡せるが如く。實に山陰道中第一の絶景なり。古歌あり。

よさの海やかすみ渡れる夕なぎに
たえく見ゆる天の橋立

と眞に實景を寫せるものといふべし。

天橋立の沙洲盡くる處に一小海峽あり。其對岸は即ち宮津港の西端にして。有名なる切戸の文珠堂は其處にあり。故に此海峽を文珠の

明治十八年(軍艦四十五)		明治二十年(軍艦三十三)	
砲數	乗組人員	砲數	乗組人員
通常砲	將校	通常砲	將校
速射砲	下士卒	速射砲	下士卒
合計	合計	合計	合計
二七三	七四六	一九七	八二六
一八五	六、〇九九	一五八	六、七一一
一二八、五九一	六、八四五	一〇〇、一一五	六、七一一
八二、九九四	六、八四五	六一、三七二	六、七一一
八二、九九四	六一、三七二	六一、一八七	六、七一一
六一、一八七	六一、一八七		

切戸ともいふ。堂の前よりは天の橋立手も届くばかりにて。眺望殊にすべれたり。

物産の著名なるものは。

丹後縮緬 撰糸 繭 銅 録
鰯 牛 煙草

の類とす。

第三章 但馬

但馬の國は。東は丹後と丹波とに隣し。南は播磨に接し。西は因幡に連なり。北の一面日本海に臨む。面積百五十五方里にして。之を城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡の五郡に分ち。兵庫縣の管轄に屬す。

地勢。西部は山嶽重疊したれども。東部には農作に適する沃野少なからず。

山の重なるものをめぐれば。中央部に妙見山、光明山並ぶ峙ち。北部には但馬富士と稱せらるる三開山あり。西部には氷山(一名日龍山)あり。

川の大なるものには朝來川、出石川あり。

明治二十六年(軍艦三十二)

馬力	九六、二六三
砲數	一五〇
速射砲	一九一
人員	六九三
將校	四、八五三
下士卒	五、五四六
合計	

明治二十五年(軍艦三十五)

馬力	六五、五二六
砲數	一九七
速射砲	一九五
人員	七一七
將校	五、二六三
下士卒	五、九八〇
合計	

明治二十四年(軍艦三十五)

馬力	六一、七六三
砲數	一七〇
速射砲	一五四
人員	七六〇
將校	四、九六六
下士卒	
合計	

朝來川(一名城崎川、又は豐岡川)は源を播磨の境に發し。國の東部を貫きて海に入り。矢田川は源を因幡の境に發し。國の西部を流れて海に入る。

朝來川の西岸にある豐岡町は。戸數千五百餘ありて。國內第一の都會なり。柳行李を此地の名産とす。

豐岡町の西一里許の處に。後鳥羽天皇第三の皇子雅成親王の御墓あり。史に曰く。承久の亂に。北條義時後鳥羽上皇を隱岐に。順徳上皇を佐渡に。土御門上皇を讃岐に遷し奉りて尙飽き足らず。後鳥羽上皇の皇子雅成親王を但馬に遷し奏りぬ。親王の御歌に。

露の身のおき處さへなかりけり

野にも山にも秋風ぞふく

かくて二十餘年間こゝにおはしまして。建長二年の秋つみに荒野の露を消えさせ給ひぬと。(第八章隱岐を参照せよ)

豐岡の北二里半の處には。湯島温泉あり。近國より來り浴するもの頗る多し。

豐岡の東南三里の處には出石町あり。もと仙石氏の城邑にして。戸數千餘を有す。

銀の産出を以て著名なる生野鐵山は。國の南部播磨の境にあり。一

人員合計

五、七二六

○水雷船艇

横須賀鐵守府所管

小 艦	長	五〇、二九〇
第一號	排水量	二〇三
馬力	一、二一七	
長	二九、四一〇	
排水量	四〇〇	
馬力	四三〇	
第二號	排水量	二九、四一〇
馬力	四〇〇	
長	二九、四一〇	
排水量	四〇〇	
馬力	四三〇	
第三號	排水量	二九、四一〇
馬力	四〇〇	
長	二九、四一〇	
排水量	四〇〇	
馬力	四三〇	
第四號	排水量	二九、四一〇
馬力	四〇〇	
長	二九、四一〇	
排水量	四〇〇	
馬力	四三〇	
第五號	排水量	二九、四一〇
馬力	四〇〇	
長	二九、四一〇	
排水量	四〇〇	
馬力	四三〇	

箇年の産額純銀十五萬貫に及ぶといふ。其盛大想あべし。鐵坑の南には生野町あり。戸數千五百餘ありて此處に御料支局を置かる。

此國の鐵道は。生野より播磨の姫路に通せる一線にして。國內を過ぐるごと一里餘を出です。而してこれ山陰道中唯一の線なり。

物産は。

金	銀	銅	鉛	牛
柳行李	煙草	出石燒	鮎	生糸
麥葉細工				

などを著名とす。

第四章 因幡

因幡の國は。東は但馬に接し。東南は播磨に。西南は美作に堺し。西は伯耆に連なる。而して北は一帶海に面す。面積およそ百方里あり。之を分ちて鳥取市、岩美郡、八頭郡、氣高郡の一市三郡とし。鳥取縣に管轄せらる。

地勢三面に山を繞らしたれども。沿海の地および中央部には沃野少なからず。

山の重なるものをあげれば。西方に鷲峰山あり。東南に池田山あり。

第六號	長	三五、〇〇〇
馬力	排水量	五四
第十四號	長	三五、〇〇〇
馬力	排水量	五四
第十五號	長	三四、〇〇〇
馬力	排水量	五三
第十八號	長	三五、〇〇〇
馬力	排水量	五四
第二十號	長	三四、〇〇〇
馬力	排水量	五三
第二十三號	長	三九、〇〇〇
馬力	排水量	八五
吳鎮守府所管	長	一九、七二〇

美作の境に那岐山あり。これをいづれもさまで高峻ならず。川の最も大なるを賀露川（一名千代川）とす。源を美作の境に發し。國の中央を貫きてゆく。諸川を合せ。賀露村に至りて海に入る。流程十二里なり。

鳥取縣廳の所在地なる鳥取市は。國の北部に位し。戶數殆ど六千。國內第一の都會にして。池田光政の舊城址あり。（光政の備前に移り弟光仲封を襲ぐ）

此國繁華の都邑極めて少なく。たゞ一の鳥取市を除けば。町制を布きたる小市街だにあらす。

物産の著名なるものは。

白珊瑚	柳行李	鳥賊	鯛
金	銀	花崗石	木綿
煙草	杉板		柿

の類とす。

第五章 伯耆

伯耆の國は。東因幡に隣し。南は美作、備中、備後と接し。西は出雲に連なる。而して北は一帯日本海に面す。面積百二十五方里餘。

第廿八號	長	一五
馬力	排水量	二〇〇
第十二號	長	三五、〇〇〇
馬力	排水量	五四
第十三號	長	三五、〇〇〇
馬力	排水量	五四
第十七號	長	三五、〇〇〇
馬力	排水量	五四
第廿四號	長	三六、〇〇〇
馬力	排水量	八〇
第廿六號	長	三一、五〇〇
馬力	排水量	六五
福龍	長	四三、〇〇〇
馬力	排水量	一、五〇〇
佐世保鎮守府所管	長	一、二八〇

之を分ちて東伯耆、西伯耆、日野郡の三郡とし。鳥取縣に管轄せらる。

地勢や、因幡に似たり。但し中央には大山の峙てるありて。平地は其東西に分れたり。

大山は國の中央に聳え。高さ五千八百餘尺。山腹なる大山寺は。養老年中僧金蓮の創めたるものにて。歴代皇室の御崇信も淺からざりき。大山の東には船上山あり。名和長年の後醍醐天皇を迎へ奉りたる舊址なり。史に曰く。諸國勤王の兵勢盛にして。北條氏の兵しばく敗績するよし聞召し。天皇ひそかに隱岐を出で、伯耆に渡らせ給ふ。其國に名和長年といふ人あり。一族をあげて兵を起し。天皇を船上山に奉じ。布の裂きては旗となし。近國諸將の紋を畫きては疑兵を設け。以て賊將佐々木清高等の兵を退けたりと。此山上には今も尙天皇屋敷と呼ぶ所あり。これ當時天皇の御座所なりしなるべし。

大山の西北に。長年を祀りたる名和神社ありて。別格官幣社の社格を有す。

其他の山嶽をめぐれば。出雲の境に開城山、船通山あり。美作の境に輕山、福山あり。いづれも數千尺の高度を有す。

第七號	長 三三、〇〇〇 排水量 五四 馬力 五二五
第八號	長 三五、〇〇〇 排水量 五四 馬力 五二五
第九號	長 三五、〇〇〇 排水量 五四 馬力 五二五
第十號	長 三五、〇〇〇 排水量 五四 馬力 五二五
第十一號	長 三五、〇〇〇 排水量 五四 馬力 五二五
第十九號	長 三五、〇〇〇 排水量 五四 馬力 五二五
第二十一號	長 二一、一五〇 排水量 八〇 馬力 一、一五〇

川の最も大なるは日野川なり。源を國の西南境に發し。東流し北折して海に入る。日野川の河口より西北海中に斗出したる一帯の長洲あり。長さ五里餘。幅最も廣き處も一里に充たず。之を夜見濱といふ。右は外海にして左は出雲の國と共に中海を抱く。風光頗る明媚なり。夜見濱の北端に境港あり。國內第一の良港にして。前は中江瀬戸を隔て、出雲の美保關と斜に相對し。中海の咽喉を扼す。國中第一の都會なる米子町は。夜見濱の南端にありて中海に臨む。戸數殆ど三千四百を有し。交通至便なるを以て商業繁盛なり。中村一忠の古城址今も尙存せり。此處より海上六里にして出雲の松江市に達す。物産の重なるものは。木綿 白珊瑚 雲母 苧麻 海藻 鯨 鯛 鱈 半紙 煙草 鉄 鋤 などの類とす。

第六章 出雲

第廿五號	長 三九、〇〇〇 排水量 八五 馬力 九〇八
第廿七號	長 三三、五一〇 排水量 六五 馬力 六〇〇

總計

船艇	二八
長	一、七七四
排水量	一八、〇二〇
馬力	二〇

明治二十八年	船艇	三〇
	長	一、八九八
	排水量	一九、二二七
	馬力	二六

明治二十七年	船艇	二六
	長	一、六四〇
	排水量	一六、五二七
	馬力	二六

出雲の國は。東伯耆に接し。西石見に連なり。南は備後に堺し。北は一面日本海に瀕す。面積は百五十餘方里ありて。之を松江市、八束郡、能義郡、仁多郡、大原郡、鞆川郡、飯石郡の一市六郡に分ち島根縣に管轄せらる。南方は一帶山脈を繞らすといへども。北方には宍道湖、中海ありて其沿岸平坦にして地味肥えたり。山嶽には。西北に枕木山あり。東伯耆の境には船通山あり。東南には伯耆、備後に跨れる三國山あり。其山脈山陰、山陽の間を限りて西に亘れり。西北には彌山(古名出雲御崎山)あり。此山麓に鎮座まします出雲大社とす。出雲大社は官幣大社にして。大國主命(又の御名大己貴命)を祭る。命は我國經營の神にして。天孫の降臨し給ふに及び。此國土を獻りて自ら退去し給ひしを。天照大神嘉賞し給ひて。多藝志小濱に宮を建て。天穗日命をして留り仕へしめ給ふ。これ即ち今の大社なりといふ。されば其縁起の古きこと伊勢神宮よりも遠く。社殿の構造高潔を極めたり。大社の南部は柘葉町にして。戸數千六百餘あり。諸國より參詣するもの多きを以て。町は旅宿を業とするもの殊に多し。

明治十六年	明治十五年	明治十四年	明治十三年	明治十二年
船艇	二三	一三	一六三、一三五、〇七八	一六三、一三五、〇七八
長	一、三九五	一、三九五	二一九、三〇〇、七七二	二一九、三〇〇、七七二
排水量	一三、三〇八	一三、三〇八	三八二、四三五、八五〇	三八二、四三五、八五〇
馬力	一、二九七	一、二九七	五六、一六五、六九四	五六、一六五、六九四
船艇	一三	一三	一二九、二四四、九八七	一二九、二四四、九八七
長	七九五	七九五	一八〇、三〇五、四七五	一八〇、三〇五、四七五
排水量	六、二九七	六、二九七		
馬力				

輸出入物品元價

川の最も大なるものを斐伊川(一名大川)とす。源を東境なる船通山より發し。西流し北流して宍道湖に注ぐ。宍道湖は。國の北部にある大湖水にして。周圍十三里餘。湖の東部は。大橋川を以て中海を通ず。中海は國の東北にある入海にして。伯耆の夜見濱を其東岸とし。美保崎の長沙洲を北岸とし。夜見濱の境港と美保崎の美保關港と斜に相對して其口をなせり。其間の小海峡を中江海峡といふ。島根縣廳の所在地なる松江市は。宍道湖の東岸大橋川の北にあり。戸數七千七百餘を有し。山陰道中屈指の都會なりとす。市の西北には。慶長年間堀尾吉晴の築造したる千鳥城あり。今尙當時の天主閣と存す。松江の名は堀尾吉晴の命名にして。宍道湖に鱈の多きこと支那の松江に似たるより。かく名づけしものなりとす。物産の著名なるものは。

松江鱈	十六島海苔	鳥賊	鯛	米
麥	雲州蜜柑	麻	綿	銅
鐵	瑪瑙			

第七章 石見

明治十九年	明治十八年	明治十七年	明治十六年	明治十五年
合計	三〇九、五五〇、四六二	五二、〇六〇、四八八	一三六、一一二、一七八	一三六、一一二、一七八
輸入超過	五二、〇六〇、四八八	二六五、七三三、七六五	一一三、二四六、〇八六	一一三、二四六、〇八六
合計	二六五、七三三、七六五	六、八五一、六〇〇	一一七、四八一、九五五	一一七、四八一、九五五
輸出超過	六、八五一、六〇〇	三三〇、七二八、〇四一	一七、七、九七〇、〇三六	一七、七、九七〇、〇三六
合計	三三〇、七二八、〇四一	四、二三五、八六九	八八、二五七、一七二	八八、二五七、一七二
輸出超過	四、二三五、八六九	九一、一〇二、七五四	七、一、三三六、〇八〇	七、一、三三六、〇八〇
合計	九一、一〇二、七五四	一六二、四二八、八三四	一九、七七六、六七四	一九、七七六、六七四
輸出超過	一九、七七六、六七四			

石見

石見の國は。東出雲、備後に接し。南は安藝、周防に隣し。西は長門に連なる。而して西北は長く海に瀕せり。面積は八百八十餘方里にして。之を瀨原郡、安濃郡、邑智郡、那賀郡、美濃郡、鹿足郡の六郡に分ち。島根縣の管轄に屬す。地勢南方に高くして地方に低きこと。他の諸國にひとし。されど地味薄瘠にして農産に適せず。たゞ東部江川(或は郷川ともかく)の沿岸のや、夏米を産す。東出雲の境には三瓶山あり。南安藝の境には三石山、大佐山あり。西長門の境には北山、野坂峠あり。されど國內には取り出でいふべき高山なし。川の最も大なるものを江川(一名石見川)とす。源を安藝に發し。東流して備後に入り三次川とよばれ。更に北流し西流して國の東部に入り。再び西に折れて海に入る。流程五十里。實に山陰道中第一の長流なり。出羽川、矢上川、市木川など皆此支流に屬す。市街の大なるものなし。其や、繁華なるは津和野町、濱田町なり。津和野町は。國の西部に位し戸數千三百餘を有す。濱田町は西北海岸の中央部にあり。千九百餘の戸數を有し。漁業と製紙とを以て國內に著名なり。

有		公		侯		伯		子	
明治二十九年	一	明治二十九年	一	明治二十九年	一	明治二十九年	一	明治二十九年	一
明治二十八年	一	明治二十八年	一	明治二十八年	一	明治二十八年	一	明治二十八年	一
明治二十七年	一	明治二十七年	一	明治二十七年	一	明治二十七年	一	明治二十七年	一
明治二十六年	一	明治二十六年	一	明治二十六年	一	明治二十六年	一	明治二十六年	一
明治二十五年	一	明治二十五年	一	明治二十五年	一	明治二十五年	一	明治二十五年	一
明治二十四年	一	明治二十四年	一	明治二十四年	一	明治二十四年	一	明治二十四年	一
明治二十三年	一	明治二十三年	一	明治二十三年	一	明治二十三年	一	明治二十三年	一
明治二十二年	一	明治二十二年	一	明治二十二年	一	明治二十二年	一	明治二十二年	一
明治二十一年	一	明治二十一年	一	明治二十一年	一	明治二十一年	一	明治二十一年	一
明治二十年	一	明治二十年	一	明治二十年	一	明治二十年	一	明治二十年	一
明治十九年	一	明治十九年	一	明治十九年	一	明治十九年	一	明治十九年	一
明治十八年	一	明治十八年	一	明治十八年	一	明治十八年	一	明治十八年	一
明治十七年	一	明治十七年	一	明治十七年	一	明治十七年	一	明治十七年	一
明治十六年	一	明治十六年	一	明治十六年	一	明治十六年	一	明治十六年	一
明治十五年	一	明治十五年	一	明治十五年	一	明治十五年	一	明治十五年	一
明治十四年	一	明治十四年	一	明治十四年	一	明治十四年	一	明治十四年	一
明治十三年	一	明治十三年	一	明治十三年	一	明治十三年	一	明治十三年	一
明治十二年	一	明治十二年	一	明治十二年	一	明治十二年	一	明治十二年	一
明治十一年	一	明治十一年	一	明治十一年	一	明治十一年	一	明治十一年	一
明治十年	一	明治十年	一	明治十年	一	明治十年	一	明治十年	一
明治九年	一	明治九年	一	明治九年	一	明治九年	一	明治九年	一
明治八年	一	明治八年	一	明治八年	一	明治八年	一	明治八年	一
明治七年	一	明治七年	一	明治七年	一	明治七年	一	明治七年	一
明治六年	一	明治六年	一	明治六年	一	明治六年	一	明治六年	一
明治五年	一	明治五年	一	明治五年	一	明治五年	一	明治五年	一
明治四年	一	明治四年	一	明治四年	一	明治四年	一	明治四年	一
明治三年	一	明治三年	一	明治三年	一	明治三年	一	明治三年	一
明治二年	一	明治二年	一	明治二年	一	明治二年	一	明治二年	一
明治元年	一	明治元年	一	明治元年	一	明治元年	一	明治元年	一

西部の海岸に小野村と稱する一寒村あり。有名なる歌聖柿本人丸の生れたる所といふ。其東なる高津山には人丸神社あり。縣社にして結構壯大ならざれども。いと物古りて神々し。此高津山は。高さ僅に五十尺許の小丘なれども。人丸の和歌によりて殊に名高し。物産の重なるものをあげれば。

紙 麻 銅 鐵 牛
 山藪 桐 鱈 鱈 鱈
 蕪菁 甘藷

などの類なり。

第八章 隱岐

隱岐の國は。出雲の北方にある海中の一群島にして。面積二十一万里餘。之を分ちて周吉郡、穩地郡、海士郡、知夫郡の四郡とす。うち周吉、穩地の二郡は一大島をなして北にあり。之を島後といひ。海士、知夫の二郡は數箇の小島よりなりて南にあり。之を島前といふ。四郡共に島根縣の管轄に屬す。

全島の地勢險峻にして農作に適せず。人民は概ね漁獵に従事せり。山嶽には。島後の東部に葛尾山あり。西尾に横尾山あり。島前の北

有		男		女		計	
明治二十九年	一六、六九二	明治二十九年	一五、二	明治二十九年	一、〇九	明治二十九年	一六、六九二
明治二十八年	一五、四四七	明治二十八年	一四、一七	明治二十八年	一、二八	明治二十八年	一五、四四七
明治二十七年	一四、〇九八	明治二十七年	一三、一八	明治二十七年	一、〇九	明治二十七年	一四、〇九八
明治二十六年	一二、六六四	明治二十六年	一二、一八	明治二十六年	一、〇九	明治二十六年	一二、六六四
明治二十五年	一一、九〇八	明治二十五年	一一、一八	明治二十五年	一、〇九	明治二十五年	一一、九〇八
明治二十四年	一〇、四〇六	明治二十四年	一〇、一八	明治二十四年	一、〇九	明治二十四年	一〇、四〇六

部に高崎山あり。東部に勝田山あり。勝田山の半腹に一町四方許の平地ありて。環らすに柵を以てし。中に二基の燈籠を置く。これ即ち後鳥羽上皇行宮の遺跡なり。史に曰く。承久三年仲恭天皇御位に即き給ふや。此時に當り後鳥羽、土御門、順徳の三上皇あり。後鳥羽順徳の二上皇は北條氏の専恣を惡ませ給ひ。院中に北面、西面の武士を置き。義時を討たんの御企願なりければ。土御門上皇は時なほ早しとて諫め給ひき。されども日に増りゆく義時の暴行に御不平堪ざる能はず。遂に兵を諸國に徴し。院宣を天下に布いて義時を討たしめ給ふ。義時即ち泰時等を將として三面より分ち進ましむ。兵勢十九萬餘なり。かくて官軍は連戦連敗京都遂に陥り。義時は恐多くも天皇を廢して九條院に移し。後鳥羽上皇を隱岐に。土御門上皇を土佐に。順徳上皇を佐渡に。雅成、頼仁の二皇子(共に後鳥羽上皇の御子)を但馬、備前に配し奉りぬ。之を承久の亂といふ。かくて後鳥羽上皇は隱岐にかはしますこと二十年。延應元年遂に崩りましぬ御製あり。

われこそは新島守上隱岐の海の
 あらき波風こゝろして吹け

と。國人よりて此處に小祠を建て。後鳥羽神社と號して皇靈を慰め

員人勳有	員人勳有	員人勳有	員人勳有	員人勳有	員人勳有	員人勳有	員人勳有
明治二十九年	明治二十八年	明治二十七年	明治二十六年	明治二十五年	明治二十四年	明治二十九年	明治二十八年
二二、四一五	五一、五六七	一六、二二二	一五、一八七	一四、一二六	一二、七一一	二四四	一、九三〇

○舊藩主領地一覽

國	藩名	領主	石	高
尾張	名古屋	徳川	六十一万九千五百	
美濃	高須	松平	三萬	
紀伊	和歌山	徳川	五十五萬五千	
伊豫	西條	松平	三萬	
上野	矢田	松平	一萬	
常陸	水戸	徳川	三十五萬	

しが。明治六年攝津の水無瀬宮へ合祀せり。今の山腹の平地は其遺跡なりといふ。

島前の西方には赤平山あり。山は低けれども。後醍醐天皇行宮の遺跡なるを以て其名は高し。史に曰く。元弘二年。北條高時僧徒を獻じて天皇に薙髮し給はんことを乞ふ。天皇許し給はざりしかば。遂に之を隠岐に遷し奉り。御味方なる親王公卿とは悉く遠島に流したり。間もなく勤王の士諸方に起り。賊軍日々に衰ふるよし聞えければ。翌年五月天皇密に隠岐を出で、伯耆に幸し給ひぬと。此處に黒木神社あり。遷幸の御記念として村民の建てたる小祠なり。勝田山なる後鳥羽上皇の御遺跡と東西相對して。長へに此國の歴史を語るに似たり。

島後の東南に西郷港あり。國內第一の良港にして。市街の戸數九百餘あり。

物産には。

木材	錫	鳥賊	鯛	和布
海鼠	章魚			

などを著名とす。

第六編 山陽道

國	藩名	領主	石	高
讃岐	高松	松平	十二萬	
陸奥	奥守	松平	二萬	
常陸	陸奥	中松	二萬	
同	共	戸松	一萬	
美濃	作	山松	十萬	
越前	前	井松	三十二萬	
越前	後	糸川	一萬	
出雲	雲	江松	十八萬六千	
出雲	雲	廣松	三萬	
出雲	雲	里松	一萬	
武藏	藏	河松	十七萬	
播磨	磨	石松	十萬	
陸奥	奥	會津	二十三萬	
上野	總	飯野	二萬	
加賀	賀	金澤	百二萬二千七百	
越前	中	富山	十萬	
加賀	賀	大聖寺	十萬	
上野	野	七日市	一萬	
薩摩	摩	鹿兒島	七十七萬八百	
日向	向	佐土原	二萬七千七十	
陸奥	奥	仙臺	六十二萬五千六百	

山陽道は畿内の西に位し。北は山陰道と腹背相接し。而して南は瀬戸内海を隔て、淡路、四國、九州と相對す。全道を分ちて播磨、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門の八箇國とし。兵庫、岡山、廣島、山口の四縣之を分轄す。

瀬戸内海は。淡路、四國、九州に包まれたる大内海にして。東は淡路と播磨との間なる明石海峡を以て大坂灣に通じ。淡路と四國の阿波との間なる鳴門海峡を以て紀州灘と通じ。西は長門と九州豊前との間なる早瀬海峡を以て日本海と通じ。西南は四國の伊豫と九州の豊後との間なる速吸海峡を以て大平洋と相通せり。而して此間に無數の小島點在す。

地勢は山陰道と正反對にて。北に大山脈を負ひ。南に至るに従うて次第に傾斜せり。故に河流は皆其山脈に源を發し。南流して瀬戸内海に注げり。但し備後と長門には一二の例外あり。

海岸もまた山陰道と正反對にて。小屈折極めて多く。恰も犬牙の觀をなす。

鐵道の通せるものは三四線あり。其一は神戸より起りたる山陽線の

同	播磨	同	陸奥	信濃	備前	上野	武藏	美濃	同	同	下野	同	上野	同	下野	下野	近江	對馬	下野	常陸	下野
二本松	三草	陸奥	奥前	濃代	後福	總佐	藏岡	濃大	同	同	野都	同	野利	同	野館	野佐	江宮	馬府	野喜	陸土	同
丹	草	津	石	代	山	貫	部	垣	同	同	野	同	林	同	倉	野	川	中	喜	浦	同
羽	同	部	同	同	同	同	部	部	同	同	同	同	元	同	田	同	田	宗	連	土	同
十萬七	一萬	十萬	十萬	十萬	十萬	十萬	二萬二千	十萬	一萬	七萬七千	一萬千	六萬	十一萬	一萬六千	一萬三千	十萬	九萬五千	八萬	五萬	三萬	五萬

川には津山川、高田川あり。津山川は源を國の北境に發し。南流して備前に入り。高田川は西境より發し。東流し南流してまた備前に入る。

國の中央部津山川の北岸に津山町あり。二千五百の戸數を有し。國內第一の都會なり。町内足袋の製作盛にして。津山足袋の名近國に高し。町の東北隅に城址あり。初め山名教清の築造せしを。森忠政の増築せしものといふ。

津山町の西北に當りて院庄村あり。後醍醐天皇の隱岐に遷され給ふ折行在所を設けられし處にて。兒島高德が櫻樹を削り。

天莫、空三勾踐、時非無二范蠡

の詩句を題したるも此邊なりといふ。

物産には。

煙草 茶 綿 銅 鐵
雲齋織 津山足袋 石灰 砥石 陶器

の類を著名とす。

第三章 備前

備前の國は。東播磨に接し。北は美作に連なり。西は備中に隣す。

參	越前	越前	信濃	常陸	丹波	丹波	丹波	丹波	美濃	美濃	參	上野	上野	肥前	信濃	參	豐後	參	美濃	丹波	丹波	出羽	丹波
河川	前大	後長	濃小	陸笠	後田	後岡	後岡	後岡	濃高	濃高	河吉	總大	野高	前島	濃松	河西	後府	河與	濃岩	濃岩	出羽	丹波	丹波
屋同	野同	岡牧	諸同	間同	邊同	中同	中同	中同	富本	富本	田松	喜同	崎同	原同	本同	尾松	内同	殿同	村同	田同	山同	山同	山同
二萬三千	四萬	七萬四千	一萬五千	八萬	三萬五千	七萬四千	七萬四千	七萬四千	一萬	一萬	七萬	二萬	八萬二千	七萬	六萬	六萬	二萬二千	一萬六千	三萬	五萬三千	三萬	五萬	五萬

而して南は瀬戸内海を隔て、四國の讃岐と相對す。面積九十四方里餘。これを分ちて岡山市、御野郡、津高郡、赤坂郡、磐梨郡、和氣郡、邑久郡、上道郡、兒島郡の一市八郡とし。岡山縣之を管轄す。

此國古へは備中、備後と共に吉備の國と稱せしが。後分たれて三國となりぬ。

地勢ほと播磨に似て。北方は高く。南方には平衍なる沃野少なからず。

瀬戸内海の特徴として海岸の小屈折は極めて多く。殊に兒島郡の一郡は半島をなして備中の國より東に突出し。内に兒島灣を抱けり。山の重なるものは。中央部に熊山あり。其西北に大王山あり。美作の境には加茂山あり。されといづれもさまで高峻ならず。

川の大なるもの二あり。東なるを東大川といひ。西なるを西大川(二名旭川)といふ。共に源を伯耆の境に發し。南流して海に入る。西大川の西岸には。岡山縣廳の所在地なる岡山市あり。山陽道中第二の都會にして。殆ど一萬二千の戸數を有す。汽車の便によれば。東京へは二十四時間半。神戸へは三時間半。西安藝の廣島へは六時間半にて達すべし。此地も池田氏の城市にして。舊天主閣荒れながらにも尙其形を存せり。市の東部にある後樂園は。我國三公園の

駿河	陸奥	攝津	豐後	出羽	駿河	上野	下野	日向	陸奥	肥前	同	陸奥	伊勢	常陸	遠江	丹波	但馬	同	讃岐
小島	奥村	津尼	後杵	羽山	河沼	總鶴	總結	向延	奥湯	前平	同	同	同	同	同	同	同	同	岐九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一萬	六萬四百	四萬	三萬二千	五萬	五萬	一萬五千	一萬八千	七萬	一萬五千	五萬九千	二萬	三萬三千	一萬五千	六萬八千二百	五萬	六萬七千七百	一萬	一萬五千	一萬

一と稱せられ。實に景趣雅致に富みたり。此園も藩主池田氏の庭園なりしを。明治四年改めて公園となりぬ。有名なる古刹西大寺は。東大川（此近傍にては西大寺川といふ）西岸西大寺村にあり。大平勝實年間の開基にして。初めは屋敷寺と書きたるを。字劃の繁を避けて西大寺と改めたり。建築の宏大近國に比なく。参詣者の範圍山陽、山陰四國に及ぶ。中央部の海濱に牛窓港あり。國內第一の良港にして市街の戸數八百餘あり。兒島半島の南端には下津井港あり。これまた良港にして。讃岐の丸龜と南北相對し。船舶の往復頻繁なり。市街の戸數殆ど千に近し。下津井港の東北にある常山は。天正年間上月隆徳の毛利氏に攻められて自殺せし所なり。鐵道は。山陽線の東より西に走れる一線あるのみ。物産は。

煙草	玉川銘酒	編笠	熊野染	伊部燻
蠶表	蕨筴	蠟石	綿花	鯉
鮎	鰻			

の類を著名とす。

第四章 備中

備前	上野	備前	越前	美濃	丹波	近江	同	伊豫	備前	日向	和泉	播磨	同	下野	常陸	遠江	丹波	但馬	同	讃岐
中庭	野安	中野	前野	濃八	波笹	江水	新谷	豫大	中岡	向飲	泉岸	磨龍	同	總高	陸下	江濱	後峰	馬豐	同	岐九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二萬	三萬	五萬	五萬	四萬八千	六萬	二萬五千	一萬	六萬	一萬三千八十三	五萬三千	五萬八千九	五萬八千	同	一萬	六萬	一萬四千四十四	一萬五千	一萬	一萬	五萬五千五百十二

備中の國は。東は備前と美作に隣し。北は伯耆に連なり。西は備後に接す。而して南は備前と同じく。瀬戸内海を隔て、讃岐と相對す。面積およそ百五十餘方里。之を分ちて都宇郡、窪屋郡、淺口郡、小田郡、後月郡、下道郡、賀陽郡、上房郡、川上郡、哲多郡、阿賀郡の十一郡とし。山岡縣の管轄に屬す。古へ吉備の國の一部分なりしこと。備前の章にいへるが如し。地勢北方は高隆にして南方次第に低下せることも備前に同じ。農作に適する沃野少なければども。山には多く礦物を産し。海には魚鹽の利少なからず。山の重なるものをあげれば。東方に雞足山あり。西方に龍王山あり。南方に陽生山あり。此等の餘脈四方に亘る。川の最も大なるものを高梁川（一名大川）とす。源を伯耆の境に發し。國の中部を貫きて瀬戸内海に入る。高梁川河口の西部に玉島港あり。其西には笠岡港あり。共に港内水淺くして大船を入るゝに足らずといへども。此國にありては良港たり。

八坂神社 鹿見島神社 白峰宮 赤間宮
 水無瀬宮 鎌倉宮 井伊谷宮 八代宮
 梅神社 貴船神社 大原野神社 吉田神
 社 日枝神社 北野神社 月山神社 宗
 像神社 金鑽神社 建部神社 多賀神社
 竈山神社 宮崎宮 諏訪神社
 官幣小社
 札幌神社 鶴戸神宮 太宰府神社 生田
 神社 長田神社 大國魂神社
 別格官幣社
 談山神社 護王神社 小御門神社 菊池
 神社 湊川神社 名和神社 阿部野神社
 藤島神社 結城神社 豐榮神社 建勳神
 社 豐國神社 東照宮 常磐神社 照國
 神社 霧山神社 梨木神社
 國幣中社
 致國神社 靜岡淺間神社 山梨淺間神社
 寒川神社 鶴岡八幡宮 玉前神社 南宮
 神社 貫前神社 日光二荒山神社 宇都
 宮二荒山神社 都都古別神社 伊佐須美
 神社 土波彦彥靈神社 大物忌神社

陸には山陽鐵道ありて東京へは二十四時間餘にて達するを得。而して四國九州への交通また自在なれば。商業上、軍事上最も重要な地たり。明治二十七八年の役大本營を此地に進められ。大元帥陛下の鳳辮を駐め給ひしより。其名海外にまで高し。市の西北部に毛利輝元の築造にかゝる城閣あり。後毛利氏長門に移り。淺野氏之に代れり。中天に聳ゆる天主閣は高さ十八間あり。城内今は第五師團の營所となれり。
 宇品港は太田川の河口にして。近年廣島市との間に鐵道を布き。十分にて達す。明治二十七八年の役に。兵士、貨物の搭載は悉く此港にてせしなり。其港たること知るべし。
 廣島より東南に當りて吳港あり。もと寂寥たる一小村なりしが。明治二十年軍港に撰定して。海軍鎮守府を置かれしより。次第に繁盛に赴けり。
 吳港の西に江田島あり。軍事學校の所在地なるを以て名高し。全島の戸數一千七百餘あり。
 廣島の西南に嚴島(島名)あり周圍殆ど八里にして。其北岸に嚴島港あり。市街の戸數九百餘。有名なる嚴島神社は實に此地にあり。嚴島神社は國幣中社にして。市杵島姫命、田心姫命、多藝津姫命

若狹彦神社 氣比神社 氣多神社 射水
 神社 彌神社 出雲神社 籠神社 出
 石神社 宇倍神社 熊野神社 水若酢神
 社 海神社 中山神社 安仁神社 吉備
 津神社 嚴島神社 山口住吉神社 熊野
 座神社 忌部神社 大麻比古神社 田村
 神社 大山祇神社 土佐神社 高良神
 社 西塞多神社 田島神社 阿蘇神社
 長崎住吉神社 海神社 事比羅神社
 大洗磯前神社 美保神社 伊太郎會神社
 新田神社
 國幣小社
 砥鹿神社 小國神社 水無神社 駒形神
 社 岩木山神社 出羽湯殿山神社 古四
 王神社 白山比咩神社 度津神社 大神
 山神社 日御崎神社 物部神社 沼名前
 神社 玉祖神社 英彦山神社 都農神社
 牧聞神社 函館神社 眞清田神社 伊和
 神社

〇二十二社及全國一宮

を合せ祭りたる古社にして。朝廷の御尊崇も淺からざりしが。何日しか其式も衰へて社殿の頽敗甚しくなりしを。中頃平清盛大修理を加へて。世にも稀なる壯觀とはなしたり。殊に其人目を驚かすは大鳥居にして。干潮の時は沙上に立ち。満潮の折は參詣の舟白帆を張りて入り入るなり。實に我國三景の一たるに耻ぢずといふべし。嚴島はまた三景の一として各高きのみならず。歴史上有名の古跡なり。史に曰く。大内義隆周防の山口城に據りて。勢甚だ盛なりしが。其臣陶晴賢急に襲うて之を弑し。其領土を奪へり。毛利元就其讐を復せんと欲し。書を上りて勅許を請ひ。城を嚴島に築きて晴賢を誘ひぬ。晴賢軍船千艘に兵士を滿載して之を攻む。其夜たましく大雨あり。元就之に乗じ精兵三千を以て襲撃し。遂に晴賢を誅せり。世以て義戦となす也。
 國內の鐵道は。山陽線の東西を貫通せるものと。廣島より宇品に通せるものとの二線なり。
 物産は。

- | | | | | |
|----|-----|----|---|----|
| 砥石 | 鐵 | 蠶衣 | 紙 | 生糸 |
| 牡蠣 | 干海老 | 浮鯛 | 麻 | 藍 |
| 煙草 | 蚊帳 | | | |

二十二社

伊勢 石清水山城下同 賀茂(上下) 松尾 平野 稻荷 春日(大和) 大原野(山城) 大神(大和下同) 石上 太和 廣瀨 龍田 住吉(攝津) 日吉(近江) 梅宮(山城) 吉田(同) 廣田(攝津) 祇園(山城) 北野(同) 丹生(大和) 貴布禰(山城)

六十六州一宮

鴨上下大神宮(山城國愛宕郡) 三輪大明神(大和國城上郡) 枚岡大明神(河内國河内郡) 大鳥神社(和泉國大鳥郡) 住吉神社(攝津國住吉郡) 敢國神社(伊賀國阿拜郡) 都波岐神社(伊勢國阿由郡) 伊射波神社(志摩國若志郡) 眞清田神社(尾張國中島郡) 砥鹿神社(三河國寶飯郡) 巳等乃麻知神社(遠江國佐野郡) 淺間大明神(駿河國富士郡) 三島大明神(伊豆國加茂郡) 淺間神社(甲斐國八代郡) 寒川神社(相模國高座郡) 水川神社(武藏國足立郡) 安房神社(安房國安房郡)

の類を著名とす。

第七章 周防

周防の國は。東安藝に接し。北は一部石見に連なり。他の一部と西の全部とは長門に包まれ。南は一帶瀬戸内海に臨む。面積百八十八方里。之を分ちて大島郡、玖珂郡、熊毛郡、都濃郡、佐波郡、吉敷郡の六郡とし。山口縣の管轄とす。

地勢東北には山嶽重疊してや、峻峻なれども。西南部には平行なる沃野多し。

重なる山嶽は。西部の右田山。東部の琴石山、氷室山。北部の寂地山、秘密嶽等なり。

川の最も有名なるを錦川(一名岩國川)とす。源を國の北境に發し。岩國町の東北を過ぎて海に入る。

岩國町は戸數千七百餘の一市街にして。商業頗る盛なり。錦川を隔て、横村山と相對す。此間に架したる橋は有名なる錦帶橋(一名算盤橋)なり。橋の長さ百二十五間。高き處は水面より十三間に及ぶといふ。其構造は。河中に四箇の石垣を造り。之を橋臺として架するに半圓形の橋五箇を以てす。延寶元年舊藩主吉川玄信の築造に

房郡) 玉前神社(上總國道生郡) 香取神社(下總國香取郡) 鹿島神社(常陸國鹿島郡) 建部神社(近江國栗太郡) 南宮神社(美濃國不破郡) 水無神社(飛騨國大野郡) 南方刀美神社(信濃國諏訪郡) 都都古和氣神社(磐城國白河郡) 大物忌神社(出羽國飽海郡) 遠敷神社(若狹國遠敷郡) 氣比神社(越前國敦賀郡) 白山比咩神社(加賀國石川郡) 氣多神社(能登國羽咋郡) 氣多神社(越中國礪波郡) 伊夜比古神社(越後國蒲原郡) 渡津神社(佐渡國羽茂郡) 出雲神社(丹波國與謝郡) 出石神社(但馬國朝來郡) 宇部神社(因幡國法美郡) 倭文神社(伯耆國河村郡) 杵築宮(出雲國出雲郡) 物部神社(石見國安濃郡) 由良比咩神社(隱岐國智夫郡) 伊和神社(播磨國宍粟郡) 中山神社(美作國西北條郡) 吉備津宮(備中國賀夜郡) 按備前備中備後三州之一宮也) 伊都伎島神社(安藝國佐伯郡) 玉祖神社(周防國佐波郡) 住吉

かゝり。爾後二百二十餘年を経れども。一時に全橋を修理したることなく。而して四個の橋臺は。急流の中心に立ちて一度も崩壊せしことなし。其堅牢にして而も雅致あること。西洋人も驚嘆して措かずといふ。

山口縣廳の所在地なる山口町は。國の西部長門の境にあり。戸數二千六百餘にして國內第一の都會なり。此地はじめ大内氏の城市なりしが。後毛利氏の有に歸して明治維新に至れり。其城閣今も尙存す。町の北部なる豊榮神社は。別格官幣社にして毛利元就を祭れり。境内廣濶にして。春秋の眺望少なからず。

山口町の東南五里餘の海濱に三田尻港あり市街の戸數二千餘。山陽鐵道は。此地まで開通し。九州への旅客は多く此港より發するが故に。船舶常に輻湊して。頗る繁盛なり。されども山陽鐵道更に延長して。長門の馬關に達するの日も近きにあれば。今日の繁華は幾分か減するなるべし。

國內の鐵道は山陽線の三田尻まで開通せるのみ。物産は。

- 岩國縮 半紙 木綿 蚊帳 銅
- 鐵 石材 茶 煙草 木材

神社(長門國豐浦郡) 日前宮(紀伊國名草郡) 伊弉諾神社(淡路國津名郡) 大
 麻彦神社(阿波國板野郡) 田村神社(讃岐國香川郡) 大山祇神社(伊豫國起智郡) 都佐神社(土佐國土佐郡) 箱崎宮(筑前國珂那郡) 高良玉垂神社(筑後國三井郡) 淀比咩神社(肥前國佐嘉郡) 阿蘇神社(肥後國阿蘇郡) 都農神社(日向國兒湯郡) 鹿兒島神社(大隅國桑原郡) 和多都美神社 (薩摩國額姓郡) 天手長男神社(壹岐國石田郡) 和多都美神社(對馬國三縣郡)

○日本地理問題

畿内

- 一、畿内の國名をあげよ。
- 二、畿内の位置及び境界を示せ。
- 三、畿内の地勢は如何。
- 四、畿内の氣候を説明せよ。
- 五、畿内の人口は幾許。
- 六、畿内の鐵道は如何。

蜂蜜 辨慶壁

の類を著名とす。

第八章 長門

長門の國は。山陽道の西端に位し。東は周防、石見に接し。北および西は日本海に臨み。南は瀬戸内海に面す。而して其西南隅は早瀬海峽を隔て、九州の豊前と相對し。我呼ばば彼まさに答へんとす。面積およそ二百方里。之を赤間關市、厚狹郡、豊浦郡、美禰郡、大津郡、阿武郡の一市五郡とし。山口縣の管轄に屬す。

山陽道の他の諸國と異にて。三面海に臨むが故に。地勢もおのづから同じからず。中國山脈は周防、石見の境より來りて國の中央を貫き。川は皆源を之に發して。南北に分派せり。されども北部沿海の地は近寒にして農作に適せず。

山の重なるものとあぐれば。西部に鬼城山あり。中央に花尾山あり。東北に伊賀尾山、碁磐嶽あり。花尾山の西北なる大寧寺山は。大内義隆父子の陶晴頼に祀せられし古跡なり。

川は南流して瀬戸内海に注ぐものには厚東川、吉田川あり。北流して日本海に入るものには阿武川(一名萩川)あり。共に國中の大川なり。

七、航路の有様は如何。

八、山城國の位置及び面積をあげよ。

九、山城の國は何々の郡市に區劃せらるや。

一〇、山城ならびに京都なる名稱の沿革は如何。

一一、山城の山岳及び位置ならびに古跡名勝の有無を詳述し。次に最高山の高さをいへ。

一二、山城の河流は其數幾許。及び其發源。流程。灌溉運漕の便不便。河口の有様等はいかなるぞ。

一三、巨椋池は何國の湖水なりや。また天然の湖水なりや否や。その周囲は如何。

一四、山城には山陵多く。歴代天皇の御靈安座。ましますや。然らば何々の郡には何天皇の御靈おはしますや。

一五、京都市は日本に於て。いかなる地位を保ちたるか。ならびに其沿革

なり。

國の西南隅なる赤間關市(一名下の關また馬關)は。早瀬海峽を隔て、豊前の門司港と相對し。瀬戸内海の咽喉をなせる要害の地にして。市街の戸數七千二百餘。商業の隆盛なること山陽道中廣島に次しより廣島と共に其名海外にまで著はる。

赤間關市の東端に壇浦あり。これ平氏滅亡の舊跡にして、古へは此邊の總稱なりしなり。史に曰く。平氏は一の谷の戦に敗れ。一族船に乗りて讃岐の屋島に遷りしが。義經の追撃急なるがため。遂に長門の壇浦に退きたり。源氏の追撃はますます烈しくして。今は水陸白旗を以て充たされ。平氏も今は逃るゝの道なし。是に於てか心を決し。二位尼は當年六歳にならせ給ふ安徳天皇を抱き奉り。三種の神器を懐にして海に投じ給ふ。平氏の一族知盛、教盛、經盛、行盛有盛、教經等之に死し。宗盛、清宗、時忠の三將勇となる。實に壽永二年三月二十四日なり。

北部の海濱阿武川の河口に近き處に萩あり。毛利氏累代の城市にして戸數殆ど四千あり。町の北端指月山には城閣依然として今なほ高く聳ゆ。

を詳らかに記せ。

- 一六、京都市街の建築物をあげよ。
- 一七、京都市街の形状及び其風景は如何。
- 一八、京都市の人情風俗は如何。
- 一九、京都市交通の有様はいかなるぞ。
- 二〇、伏見はいかなる處ぞ。
- 二一、山城國の物産には何々ありや。
- 二二、山城國の神社佛閣をあげよ。
- 二三、大和國の位置は如何。ならびに其面積區劃をあげよ。
- 二四、大和國に山陵の多きは何を以てぞ。ならびに其山陵を詳記せよ。
- 二五、大和巡りなるものは。何によりて起るぞ。
- 二六、大和國の山嶽をあげよ。
- 二七、笠置山。吉野山の歴史は如何。
- 二八、吉野の風景は如何。
- 二九、大和にての最高山は何といふぞ。その高さを示せ。
- 三〇、大和國の河流には幾つあるぞ。ならびに其上流發源等を各河流に就

國內鐵道の通せのものは未だめらざれども。山陽線は日ならずして赤間關に延長せられ。商業上、軍事上最も重要なる地となるべきこと明かなり。

物産の著名なるものは。

赤間關硯	セメント	石炭	陶器	煙草
硫酸	鹿子染	鯨	鑛	平家蟹
藤細工	竹細工			

の類とす。

きて説明せよ。

- 三一、奈良はいかなる所ぞ。其人口は幾何ぞ。
- 三二、春日山三笠山の勝地は何處に在るか。奈良に次ぎて此國の名所ともいふべきものをあげよ。
- 三三、大和國の物産は幾種ありや。
- 三四、大和の舊蹟をあげ。次に山陵神社佛閣を示せ。
- 三五、河内國の位置及び面積をあげよ。
- 三六、河内國は如何様に區劃せられたるぞ。
- 三七、楠正成出身の國は何くぞ。
- 三八、葛城山の位置。及び其一名は如何次に此山の歴史を示せ。
- 三九、赤坂城の所在地。ならびに此城の歴史をあげよ。
- 四〇、四條畷はいかなる處ぞ。及び四條畷神社は如何。
- 四一、河内の山陵をあげよ。
- 四二、河内國の物産を問ふ。

第七編 南海道

南海道は。四國、淡路、紀伊より成る。紀伊は畿内の南部に在り。東北の一部東海道に接し。淡路、四國は其西部海中に並び。瀬戸内海を隔て、山陽道と相對し。四國の西端は速吸海峡を以て九州と界す。而して南は一面太平洋に臨めり。

四國とは阿波、讃岐、伊豫、土佐なれば。之に紀伊、淡路を加へて全道を六箇國とし。三重、和歌山、兵庫、徳島、香川、愛媛、高知の七縣之を分轄す。

四國、紀伊、淡路は海を隔て、相離るといへども。地勢は互に連絡を有せり。即ち四國は兩端廣くして中央は絞つたるが如く細く。而して一帯の山脈其中央を貫き。東部に至りて二派に分れ。共に海中に隠れて再び起り。一は淡路となり。一は紀伊に入る。いはゆる四國山脈これなり。而して川は皆此山脈より發して四方に分流せり。海岸の屈折は少なからずといへども。其港灣には乏し。

鐵道の通せるものすべて七線あり。其一は紀伊の和歌山より船戸に至れるもの其二は讃岐の高松より琴平に至れるもの。其三は伊豫の藤原と郡中との間に通せるもの。其四は道後と松山との間に。其五

- 四三、和泉國の位置。及び其大さ面積を問ふ。
- 四四、和泉の沿革。及び其區劃をあげよ。
- 四五、堺市の位置。及び人口を問ふ。
- 四六、堺市の沿革は如何。及びこれに次ぎたる名邑を問ふ。
- 四七、河内國の物産は何々乎。
- 四八、攝津國の位置及び面積を問ふ。
- 四九、攝津の地勢ならびに人口稠密の箇處は如何。
- 五〇、大阪市の位置及びその日本に於ける地位は如何。
- 五一、大阪市の廣さならびに人口をあげよ。
- 五二、大阪市の沿革を問ふ。
- 五三、大阪市に於ける水路の有様は如何。
- 五四、大阪市内の諸官衙をあげよ。
- 五五、大阪市の鐵道は如何。
- 五六、大阪市の水路は如何なるところに通じたりや。それによりて得るところの利は如何。

は道後と古町との間に。其六は平井河原と高濱との間に。其七は森松と石井との間に通せるものこれなり。此くの如く鐵道は伊豫に最も多くして。讃岐、紀伊これに次ぎ。淡路、阿波、土佐には一線の開通せるものなし。而して海上の交通も讃岐、伊豫、紀伊最も便にして。淡路、阿波、土佐は第二に位す。

第一章 紀伊

紀伊の國は。大和の國の南部に位して其一半を據し。東北は伊勢に接し。西北は河内、和泉に隣し。東、西、南の三面は海に臨めり。面積すべて三百八十餘方里。之を分ちて一市九郡とす。うち北牟婁郡、南牟婁郡の二郡は三重縣に管轄せられ。和歌山市、海草郡、那須郡、伊都郡、有田郡、日高郡、西牟婁郡、東牟婁郡の一市七郡は和歌山縣に管轄せらる。此國古へは木の國と稱へしが。元明天皇の和銅年間勅して國郡の名に好字を撰ばしめ給ひし時。木の字を紀と改め。且『きの響』の音を添へて二字とし。紀伊の文字と定まりたり。北部大和の境には。山嶽相重なりて地勢頗る峻嶮なれども。沿海の地は平衍にして。殊に魚鹽の利に富めり。

- このの利は如何。
- 五七、大阪市の港内は如何。
- 五八、大阪市と東京市との距離を問ふ。また汽車にて相通ふ時は如何。
- 五九、神戸市は如何なる處ぞ。ならびに其位置人口を問ふ。
- 六〇、兵庫縣廳は何市にありや。神戸市なる名稱には沿革ありやなしや。
- 六一、淡川は如何なる處乎。ならびに淡川神社は何人を祭るところぞ。其境内には如何なるものありや。
- 六二、淡川の外。神戸附近の舊址古戰場及び名勝温泉等をあげよ。
- 六三、攝津の物産を問ふ。
- 六四、攝津の神社佛閣を問ふ。
- 六五、畿内の他國に優りたる處は如何。東海道
- 六六、東海道を成したる國名を問ふ。
- 六七、東海道の位置は如何。
- 六八、東海道の長さ幅ならびに面積をあげよ。

海岸には大なる屈折なしといへども。三面海に臨みたれば其間に良港灣少なからず。東部の海を熊野浦といふ。宇八井灣、勝浦灣、浦神灣等皆此中にあり。國の南端を潮岬といふ。其東部に大島港あり。南海の要津にして船舶常に輻湊す。

西部の海を紀州灘といふ。此中に和歌浦、由良濱等あり。山の重なるものは。西北部に高野山。其西南に白馬嶽。東南部に那智山。南部の中央部に大塔峰等あり。中にも高野山は僧空海(弘法大師)の創立にかゝる金剛峰寺のある處なれば。最も著名なり。金剛峰寺は眞言宗の本寺にして。恰も天臺宗の比叡山に於ける。日蓮宗の久能山に於けるに同じく。堂塔の宏壯山中の奇勝筆紙に盡すべからず。

高野山に次ぎて名の高きは那智山なり。山中に大小四十八の瀑布あるを以て聞ゆ。うち第一の瀧最も奇觀にして。高さ八十四丈幅十八間に及ぶ。頓阿法師歌あり。

山さかみ雲より落つる瀧つせの
あたりの雨は晴るゝ日もなし

- 六九、東海道の人口は幾許。
- 七〇、東海道は何々の府縣によりて統轄せらるるか。
- 七一、東海道の地勢を問ふ。
- 七二、海岸の有様は如何。
- 七三、關東平野はいかなるところか。ならびに其面積を示せ。
- 七四、濃尾平野はいかなる處か。
- 七五、東海道の氣候地味ならびに人家の粗密を問ふ。
- 七六、東海道交通の有様は如何。之をむかしに溯りて合はせ答へよ。
- 七七、あはせて鐵道の線路を問ふ。
- 七八、伊賀はいかなる國か。ならびに面積郡名をあげよ。
- 七九、伊賀國の市邑は幾つありや。ならびに此國の名所河流を示せ。
- 八〇、伊賀國にて主なる物産は何々か。
- 八一、伊勢國の面積。および郡市を問ふ。
- 八二、伊勢國の地勢は如何。其地勢により河流はいづれの方角を取りて流るぞ。その河流の名をもあげよ。

川の最も大なるものは紀の川(一名紀伊川)なり。源を大和の大臺原山に發し。すなはち吉野川の紀伊に來り名を替へたものにて西流して紀州灘に入る。

熊野川(一名新宮川)は源を大和の中央部に發し。南流し東流して熊野浦に注ぐ。大和にて十津川といふもの即ち此上流なり。

其他有田川、日高川、安宅川、富田川等國內の大川なり。中にも日高川は急流激端殆ど瀑布の如きを以てあらはる。

和歌山縣廳の所在地なる和歌山市は。國の西部紀の川の南岸に位し其水を引きて市内の運輸に便す。戸數殆ど一萬四千にして南海道中第一の都會なり。舊和歌山城の本丸なる三層の天主閣は巍然としてなほあり。城の近傍一帶の地を吹上と稱す。これより古への海濱にして白砂の風に吹き上げらるゝより得たる名なりける。

和歌山の西南に和歌浦の勝地あり。東西二十町許の入海にして。其眺望三景に讓らず。山邊赤人歌あり。

和歌の浦に汝みちくれば瀉を無み
蘆邊をさして田鶴なきわたる

一の和歌山市に吸收せられたるや。國內市街の數極めて少なく。新宮町、田邊町、湯淺町等いづれも戸數二三千の小市街に過ぎず。

- 八三、伊勢の海はいかなる處をいふや其海岸に於ける名勝の地は如何。
- 八四、伊勢國は何によりて如何様に分ち稱へらるるか。
- 八五、桑名の位置及び人口を問ふ。桑名は何處に通じたるか。また桑名に次ぎての名邑は何くか。
- 八六、四日市はいかなる處か。其位置及び人口を問ふ。ならびに其交通輸出の有様は如何。
- 八七、津はいかなる處か。
- 八八、宇治山田町はいかなる處か。ならびに其人口をあげよ。
- 八九、伊勢國の神社をあげよ。
- 九〇、内宮。外宮にはいかなる神を祀りたるか。ならびに伊勢參宮といふは。いかなる事の謂か。
- 九一、伊勢國の産物をあげよ。
- 九二、志摩はいかなる國か。及び其面積

鐵道は和歌山と船戸との間に通せる短線と。大和の五條より來れる線が國境なる橋本に僅に入れるものとなり。

物産は。

紀州蜜柑	紀州ネル	木材	漆器	高野紙
甘藷	砂糖	鯨	鱒	鮭
高野豆腐	葛粉			

の類を最も著名とす。

第二章 淡路

淡路の國は。内海中の一孤島にして。東は大坂灣に臨み。西は瀬戸内海に。南は紀州灘に面す。而して其三方の岬角に海峽あり。即ち北は明石海峽を隔て、播磨と對し。東南は由良海峽を以て和泉と。西南は鳴門海峽を以て阿波と相堺す。面積は三十六方里餘あり。これを津名郡、三原郡の二郡に分ち兵庫縣の管轄に屬す。

海中の一孤島たるに似ず。峻峻なる山少なくして平行なる沃野多し。

山のや、高きものは。北方に常陸寺山。南方に鷲鶴羽山あり。常陸寺山の南に早良親王の御墓あり。史に曰く。桓武御皇の御弟に

- 九三、志摩國の地勢は如何に。並に海岸の有様を示せ。
- 九四、志摩國の郡名を問ふ。
- 九五、志摩國の岬を示せ。又その岬は國中何れの方位に突き出でたりや。
- 九六、鳥羽的矢の二港は何れの方位に當るか。また其沖には如何なるものありや。
- 九七、志摩國は如何なる物産に富みたるや。
- 九八、尾張國の面積及び郡市を示せ。
- 九九、尾張國の山川を示せ。
- 一〇〇、小牧山は如何なる歴史のある處や。ならびに此國の西部は如何。
- 一〇一、名古屋市の位置人口を語れ。
- 一〇二、名古屋市に於ける交通の有様を語れ。
- 一〇三、名古屋城の事を記せ。
- 一〇四、熱田は如何なる處ぞ。ならびに其位置を語れ。

早良親王と申すおはしましき。立ちて皇太子となり給ひしが。天皇の寵臣藤原種繼を惡ませ給ひ。之を除かんとて大伴繼人等をして謀らしめ給ひしかば。繼人等遂に射て種繼を瘞しぬ。事遂に現はれて天皇いたく逆鱗ましく繼人等を誅し。皇太子を淡路に流し給ふ。途にして薨じ給へり。

川のや、大なるものは。三原川、洲本川などなり。

洲本川の河口には洲本港あり。國內の良港にして。神戸、大坂へ定期往復の汽船あり。市街の戸數千七百餘ありて。國中最も繁華の地とす。洲本の東南なる由良港また良港なり。

國の西南部鳴門海峡の此方に福良港あり。阿波の撫養港と相對して四國交通の要津をなす。

福良町より國道に沿うて北方に進めば。傍に淳仁天皇の御陵あり。東西殆ど二百間南北七十間餘の丘陵にして。土人之を天皇の森と稱へ奉る。

此國未だ鐵道の敷設あらざるといへども。坦々たる國道は南北に通じ。殊に各港よりは畿内、山陽、四國への往復自在なれば交通には大に不便を感せず。

物産の著名なるものは。

- 一〇五、熱田神社の祭神および歴史を語れ。
- 一〇六、尾張の佛閣を示せ。
- 一〇七、名古屋及び熱田を除きて。尾張には幾つの市街ありや。
- 一〇八、鳴海及び有松は何を以て著はれたりや。ならびに桶狭間諸洲は如何なる事のありし處や。
- 一〇九、尾張國の物産を問ふ。
- 一一〇、三河國は何々の郡に分たるぞ。及び其面積をあげよ。
- 一一一、三河國の山脈を詳らかに記し。次に白根山黒法師山及び無間山の高を示せ。
- 一二二、國名を三河と名げたるは何に由りてぞ。
- 一二三、伊豆湖崎の位置を示せ。
- 一二四、豊橋は如何なる處や。及び其位置人口を問ふ。
- 一二五、岡崎の位置及び人口をあげよ。
- 一二六、徳川家康出身の地は何く。

- 石材
- 陶器
- 砂糖
- 綴糸
- 鯛
- 鱈
- 章魚

第三章 阿波

阿波の國は四國の東部に位し。東は紀州灘を隔て、遙に紀伊と相對し。東北は鳴門海峡を以て淡路に界し。北は一部瀬戸内海に臨み。大部讃岐に接す。而して西は伊豫に。西南は土佐に連なり。東南は太平洋に面す。面積およそ二百七十餘方里。之を分ちて徳島市、名東郡、名西部、勝浦郡、那須郡、海部郡、板野郡、阿波郡、麻植郡、美馬郡、三好郡の一市十郡とし。徳島縣之を管轄す。

國の北部には吉野川あり。其沿岸は平均にして地味藍を育つるに適すれども。其他の大部は丘陵起伏して地勢峻なり。

國中第一の高峰を劍山とす。土佐の堺にありて。直立六千百餘尺。其南には白髮山あり。聖峰、京柱山其西に連なる。中央部には旭丸山矢筈山ありて。いづれも國內の高山なりとす。

吉野川は源を土佐の矢筈山に發し。東流して國の北部を貫き。鳴門海峡の南部に注ぐ。流程三十一里にして四國第一の大川なり。より

- 一一七、三河國の物産をあげよ。
- 一一八、遠江國の郡名及び面積を問ふ。
- 一一九、遠洲灘とは何くをいふ。
- 一二〇、遠江國の河流及び原野の有様を記せ。
- 一二一、遠江國の水陸交通の有様をあげよ。
- 一二二、濱松は此國にていかなる處。
- 一二三、遠江の物産をあげよ。
- 一二四、駿河の位置及び地勢を問ふ。
- 一二五、富士山の位置高さ形ち及び山中の名所を説明せよ。
- 一二六、駿河國の郡市を問ふ。
- 一二七、静岡市はいかなる處。
- 一二八、静岡縣廳の所在地を問ふ。
- 一二九、清水港はいかなる處。
- 一三〇、沼津はいかなる處。

て四國三郎の異名あり。兩岸には此國の名物なる藍を産すること前にいへるが如し。

吉野川の分流なる新町川の河口に徳島市あり。徳島縣廳の所在地にして。戸數殆ど一萬三千。四國第一の都會なり。市内に城山あり。長曾我部元親の臣吉田康俊の羽柴秀吉に攻められたる舊跡にして。後蜂須賀氏の所領に歸したり。

徳島市の北四里餘の處に撫養港あり。鳴門海峡を隔て、淡路の福良港と相對し。國內の良港なり。市街の戸數三千餘ありて。其繁華徳島に次ぐ。

鳴門海峡は其最も狹き所。幅僅に十五町にして。裸島、飛鳥等の小島嶼其間に散在せり。故に潮の満干によりて。瀬戸内海の水が外海に流れ出で。又は再び流れ入る時。急奔島に激せられていよく勢を増し。且暗礁に觸れて狂亂し。遂に盤旋して渦巻を生ず。其壯觀見るものをして目眩き耳破るゝの思あらしむ。然れども潮の満干の時間を除けば。海上極めて平穩にして。島に釣垂るゝ海士も見ゆ。

鳴門海峡の西都には土御天皇の御陵あり。史に曰く。承久の亂に北條義得後鳥羽上皇を隠岐に遷し奉りたれど。中院(土御門天皇)は初より事に與らせ給はざりしかば。何の沙汰もなかりけるに。父の院

- 其位置及び人口をあげよ。
- 一一一、三保の松原及び田子の浦は。何國のいかなる處にある。
- 一一二、熱津はいかなる處。
- 一一三、大井川はいかなる流れ。
- 一一四、駿河國の有名なる神社に就きて。各社の社格祭神及び鎮座の起原にして明らかなるものをあげよ。
- 一一五、駿河國の物産は何々。
- 一一六、甲斐國の地勢は如何。
- 一一七、甲斐の山嶽に就きて著名なるものならびに其歴史を語れ。
- 一一八、甲斐國の面積及び郡市をあげよ。
- 一一九、山梨縣廳の所在地をあげよ。

を初め奉り皆遠近に遷され給ふに。ひとり都に留まらんは本意ならずとて。遂に土佐の國に遷され給ひ。後阿波に移らせ給ひぬと。物産には。

鳴門鯛	藍	煙草	齋田鹽	鯉節
紙	阿波縮	砂糖	素麵	鮎
鱈魚				

などを著名とす。

第四章 讚岐

讚岐の國は。四國の東北部に位し。東西北の三面瀬戸内海に臨み。南は阿波に接し。西南の一小部伊豫に連なる。面積百餘方里にして。四國中の最小國なり。これを高松市、大内郡、寒川郡、三木郡、小豆郡、山田郡、香川郡、阿野郡、鶴足郡、那阿郡、多度郡、三野郡、豊田郡の一市十二郡に分ち。香川縣廳の管轄に屬す。

地勢南方阿波の境は山嶽重疊してや、峻なれども。北方沿海の地は平坦なる沃野多く。最も來麥に適せり。

山の最も著名なるは琴平山(一名象頭山)なり。國の西部に位し。山腹に有名なる琴平神社(もと金毘羅大權現と稱へたり)あり。祭

- 一四〇、勝沼町はいかなる處乎。ならびに其位置は如何。
- 一四一、甲斐國の重なる川の名をあげよ。
- 一四二、甲斐國の物産をあげよ。特に全國其類を見ざる名産は何なる乎。
- 一四三、伊豆國はいかなる處ぞ。尋いで伊豆なる國名の由来を記せ。
- 一四四、伊豆國の地勢及び面積をあげよ。
- 一四五、伊豆國の温泉にて最も名高きものを記せ。
- 一四六、石廊崎の位置を示せ。
- 一四七、伊豆國の最高山を何といふ乎。また此山によりて獲る所の利は如何。
- 一四八、伊豆國中の大河。及び其附近に於ける建物をあげよ。
- 一四九、國中の名邑を記せ。
- 一五〇、ペルリの渡來を以てあまねく人に知られたる處は何くぞ。及び其位置を記せ。

神は大己貴命にして。社格は官幣小社なれども。參詣人の多きこと。伊勢の大廟を除きては我國第一なりといふ。山麓には琴平町あり。千數百の商家悉く參詣人に因りて生活する有様なり。東北部に屹立せる五剣山は。四峰(右へは五峰なりしなり)劍を立てたる如き奇形を以て顯はれ。其西方にある屋島山は。源平の古戰場なるを以て其名高し。山麓には安徳天皇行在所の跡あり。川には土器川、香東川あり。共に源を阿波の境に發し。北流して瀬戸内海に注ぐ。流程僅に入九里に過ぎず。香川縣廳の所在地なる高松市は。香東川河口の東部に位し。戸數七千六百餘を有す。海水深く灣入して瀬戸内海の良港をなしたれば。商船常に輻湊して貿易繁盛を極む。市の北端には。生駒親正の築造にかゝる城閣今も存せり。高松市より西汽車にて一時間餘の處に丸龜町あり。國內第二の都會にして戸數四千八百餘あり。海濱は自然の港灣をなされれども。人工を以て船の碇泊に便ならしめしたため。今は瀬戸内海の要港となり。商業次第に繁盛に赴きぬ。第十一師團司令部あり。丸龜の西汽車にて十分餘の處に多度津港あり。これまた一要津にして。船舶つねに輻湊す。

- 一五一、此國の物産は何々ぞ。
- 一五二、相模國の形勢は如何。
- 一五三、相模國にて有名なる河流をあげ次に此國の湖水を記せ。
- 一五四、相模國の面積及び郡名を示せ。
- 一五五、相模國の海岸即ち岬灣。及び其附近の有様を詳らかに語れ。
- 一五六、大船の位置及び交通の有様を問ふ。
- 一五七、鎌倉の位置及その四邊の有様歴史上の事蹟は如何。
- 一五八、横須賀の位置及倉鎌との汽車里程横濱との距離は如何。
- 一五九、横須賀は何のある處乎。何を以て著はれたる乎。
- 一六〇、浦賀港の位置を示し合はせて其東端の如何なる所なるかを記せ次に其歴史を述べよ。
- 一六一、江の島の位置及び風景は如何。

國の西北部に凸出したる岬あり。箱崎といふ。其咽喉部に後醍醐天皇の皇子妙法院尊澄法親王の御碑あり。元弘の亂に。親王の此處に遷され給ひし舊跡なり。國內の鐵道は。高松より丸龜、多度津を経て琴平に至れる一線あるのみ。物産には。

砂糖	鹽	石炭	保田織	煙草
米	麥	茶	鯛	蝦
紙	花崗石	讃岐石		

の類を著名とす。

第五章 伊豫

伊豫の國は四國の西北隅に位し。東は讃岐と阿波とに接し。南は一帯土佐と腹背相合し。北は瀬戸内海を隔て、山陰道の備後、安藝と相對し。西は速吸海峡を以つて九州の豊後に堺す。四國第二の大國にして面積三百四十餘方里。之を分ちて松山市、宇摩郡、新居郡、周桑郡、越智郡、温泉郡、伊豫郡、上浮穴郡、喜多郡、東宇和郡、西宇和郡、南宇和郡、北宇和郡、一市十二郡とし。愛媛縣之を管轄

- 合はせて其ほとりなる舊蹟をあ
げよ。
- 一六二、大磯及び箱根七湯は各々何に
りて著はれたるや。
- 一六三、鎌倉に遊びし人は必ず鎌倉宮を
拜せしならん。鎌倉宮は何時頃
の建立に係り何を祭れるとて
るや。其歴史は如何。
- 一六四、鶴岡神社の祭神は如何。
- 一六五、相模の佛寺にて有名なるもの
あげよ。
- 一六六、武蔵國は如何なる位置を占めた
るぞ。ならびに國中の河流及び
交通の便不便を問ふ。
- 一六七、武蔵の山脈地勢及び地味をあげ
よ。
- 一六八、武蔵の面積および郡市を記せ。
- 一六九、帝國の首府は何くぞ。ならびに
其人口を問ふ。
- 一七〇、東京市街の位置ならびに市に於
ける百般の現象を記せ。

地勢東北より西南に延び。山嶽は到る處に起伏して高低一ならずといへども。松山附近、**牝川**、**沿岸**、其他沿海地方には平坦の地少からず。

海岸の屈折は極めて甚しく。北部に突出したる崎を**大間岬**といひ。西南部にある一條の長洲を**佐田岬**といふ。

大間岬は讃岐の箱崎と遙に相對して一大灣を抱く。其東部を**水島灘**といひ。西部を**燧灘**といふ。

佐田岬は豊後の地蔵崎と相對して瀬戸内海の關門を扼し。南速吸海峽を以て外海に通せり。

山の最も俊高なるを**石槌山**とす。四國第一の高山にして直立六千四百餘尺。山上に**石槌神社**あり。登山の道最も險難にして。絶壁の上より垂れたる鐵の鎖を攀り上ること三回にして。漸く絶頂に達すといふ。古歌に**伊豫の高嶺とよみたるは是なるべし**といふ。

石槌山に次ぐ高山は**瓶森山**にして。高五千七百尺あり。石槌山の東に屹つ。其他**大野山**、**二峠山**、**神南山**、**出石山**等あり。

別子山は國の東部にあり。銅の産出我國第一と稱せらる。

川の太なるは**牝川**なり。源を國の西部に發し。北流して瀬戸内海に

- 一七一、東京市の沿岸は如何。
- 一七二、東京市は如何様に區劃せらる、や。
- 一七三、官城は市中何れの地にありや。合はせて其周圍および附近の有様を記せ。
- 一七四、東京市内に架設せられたる電信電話電氣燈および瓦斯燈の有様は如何。
- 一七五、東京市街の周圍及び地勢を問ふ。合はせて人類生活の有様を。各地勢に就きて分ち示せ。
- 一七六、東京市に於ける諸種の交通は如何。
- 一七七、東京市内にありて吾人の遊覽に供せらるゝものを記せ。
- 一七八、東京市の神社佛閣を問ふ。
- 一七九、横濱は本邦の諸港中いかなる地位にありや。ならびに其位置人口東京との汽車里程をあげよ。
- 一八〇、神奈川縣廳の所在地を問ふ。

注ぐ。流程三十一里餘。其他**銅山川**は別子山より發し阿波に入りて吉野川に合し。而**河川**は國の中央部より發し。南流して土佐に入る。これ即ち仁淀川の上流なり。

愛媛縣廳の所在地なる**松山市**は。北部の海岸にありて。八千二百餘の戸數を有す。市の中央なる三層の**天主閣**は。加藤嘉明の築造にして。後松平氏の手に移り明治維新に至れり。今は十一師團の分營となれり。

松山市の東一里許の處に**道後温泉**あり。上古より有名の温泉にして。舒明天皇、仲哀天皇、齊明天皇しばしば臨幸せさせ給ひしこと國史に見ゆ。遠近より來り浴する客多し。

松山市の東北大間岬に近き海濱に**今治町**あり。戸數殆ど五千。國內屈指の都會なり。藤堂高虎の築城ありしが。今は毀たれて堀のみ殘れり。町の北部なる港内には船舶常に輻湊す。

佐田岬以南の海岸は屈折最も甚しく。且無數の小島嶼其間に點在す。隨ひて良港灣少なからざる中に。宇和島港を以て第一とす。

宇和島港は西海岸の中央。宇和島灣の内にあり。水甚だ深からずといへども。灣口屈折して。且前面に九島あり。天然の波止場をなし。港内頗る波穩かなれば。商船の碇泊常に絶えず。市街の戸數は三

- 一八一、横濱市の沿革及び繁華の有様を述べよ。
- 一八二、横濱より輸出せらるる物品をあげよ。
- 一八三、浦和はいかなる處乎。また何縣廳のある處を合せて其位置および交通の有様を問ふ。
- 一八四、八王子はいかなる處ぞ。またいかなる物産によりて著はれたるを合せて其人口を問ふ。
- 一八五、武藏國の名邑及び歴史に名高き地をあげよ。
- 一八六、武藤國の物産を問ふ。
- 一八七、武藏國の神社佛閣を問ふ。
- 一八八、安房國の位置は如何。
- 一八九、その沿岸の有様は如何。
- 一九〇、上總國の郡名及び面積を問ふ。
- 一九一、上總國の海岸の有様は如何。
- 一九二、上總の名邑をあげよ。
- 一九三、宮津洲はいかなる處ぞ。
- 一九四、上總國の物産は何ぞ。

千餘あり。此地もと伊達氏の城市にして。市街の繁盛松山市に次ぐり。鐵道は數線あれども。いづれも松山附近に通せる短線なり。即ち一は松山の西南郡中と藤原との間に。一は松山と道後との間に。一は道後と古町との間に。一は松山の東部平井河原と東北海濱の高濱との間に。一は森松と石井との間にあるものこれなり。物産は。

銅	安質母尼	干海老	鯛	鰹節
甘蔗	紙	醤油	松山綿	生糸
陶器	漆			

の類を著名とす。

第六章 土佐

土佐の國は。四國の西南部に位し。東北は阿波に隣し。北は一帯伊豫と腹背相接し。南部は一面海に臨む。四國第一の大國にして面積四百五十餘方里あり。之を高知市、土佐郡、幡多郡、高岡郡、吾川郡、長岡郡、香美郡、安藝郡の一市七郡に分ち。高知縣これを管轄す。

- 一九五、下總國はいかなる土地ぞ。ならびに其國境は如何。
- 一九六、下總に於ける水運の便不便。ならびに面積郡名を記せ。
- 一九七、千葉はいかなる處ぞ。且つ其人口東京との交通は如何。
- 一九八、銚子の位置及び人口を問ふ。且つ市街の交通。繁華の有様は如何。また何を以て世に聞えたるぞ。
- 一九九、下總國の海岸の有様を述べよ。
- 二〇〇、千葉及び銚子の外に此國の都會及び名邑をあげよ。
- 二〇一、下總の物産をあげよ。
- 二〇二、下總國の神社佛閣を示せ。
- 二〇三、常陸國の位置地勢をあげよ。
- 二〇四、常陸の山岳中。最も名高きものに就きて其高さを示し。合はせて其山の方位を告げよ。
- 二〇五、常陸の面積は幾許ぞ。また幾つの郡市に分れたるや。

國の東部には室戸岬の突出あり。遂に西部の蹉跎岬と相對して土佐灣を抱く。史に曰く。天武天皇自風十三年四國地大に震ひ。土佐の南部一帶陥落して海となれり。即ちこれなり。國內到る處群峰起伏して。地勢頗る峻峻なれども。沿海地方はやや平夷なり。地味は沿海稍確にして。内地却つて肥沃なること奇といふべし。山の重なるものをあげれば。東北阿波の境に野根山、魚梁瀬山、あり。野根山の支脈に土御門天皇のおはしまし、舊跡あり。北部伊豫の境には。野地峰、瓶森山、矢筈山、目黒山、羽根山等相連なり。内地にも峻峰甚だ多し。

河流は皆南流して土佐灣に注げども。唯一つ中央より發して東流し。阿波に入るものあり。これを四國第一の大川吉野川の上流とす。土佐灣の中部に注ぐ仁淀川は。源を伊豫の中央に發し。(前章參看) 東南に流れて海に入る。流程十七里。渡川(一名四萬十川)は國內第一の大川にして。源を國の北境に發し。南に西にしばく屈曲して土佐灣の西部に注ぐ。延長二十五里。高知縣廳の所在地なる高知市は。土佐灣の底部に位し。戸數八千四百餘あり。水陸運輸の便よきを以て。商業頗る盛なり。もと山内氏

- 二〇六、水戸市は何縣廳の所在地なるぞ。また如何なる歴史を有したるぞ。あはせて其位置人口名産ならびに交通の有様を問ふ。
- 二〇七、次に此國の名邑をあげ。中にも著はれたるものに就きて。其位置及び交通の有様をあげよ。
- 二〇八、常陸國の要港及び舊蹟の世に聞へたるものを記せ。
- 二〇九、此國の神社及びその祭神を列記せよ。
- 二一〇、常陸國の物産は何々ぞ。
- 二一一、東海道に屬する島嶼を大別すれば幾つに區分せらるべきぞ。
- 二一二、伊豆七島の名を擧げよ。
- 二一三、伊豆七島中最大なるものは何ぞ。その周圍の長短里數をあげよ。且つ此島は總て幾つの島に小別せられたるぞ。
- 二一四、鎮西八郎爲朝遠流の地として。あまねく人に知られたるは何れの島ぞ。

の城市にして。天主教のみ今も存す。高知市の南部に浦戸村あり。今は寂寥なる一村落なれども。天正年中長曾我部元親の城を築きて。四國全島を支配せしところなり。高知市より西十一里の處に須崎港あり。港内水深くして大船巨船を入るゝに足る。國內第一の良港なり。高知市との間に日々汽船の往復絶えず。蹉跎岬の西部海濱に龍串の奇景あり。奇岩怪石海中に起伏して相連なること半里に及び。國內第一の名勝なり。國內鐵道の開通なく。且外海に臨めるを以て。交通甚だ便ならず。物産の著名なるものは。

鯨節	珊瑚	鯨	半紙	生糸
茶	藍	砂糖	鹽	椎茸
石材	木材			

の類なり。

- 二一五、八丈島は何を以て有名なるぞ。あはせて其位置。伊豆の下田港と距離及び島中の火山を記せ。
- 二一六、伊豆七島の氣候温和なるは何を以てぞ。
- 二一七、小笠原群島とは何ぞ。
- 二一八、小笠原島なる名稱は。何年號の頃何によりて起りしぞ。また其前は何と稱せしぞ。其人口及び人種を問ふ。
- 二一九、小笠原群島の地味産業。それによりて生ずるところの物産をあげよ。
- 二二〇、小笠原群島の南方に列なりたるは如何なる島ぞ。其數は如何。また我國の版圖に入りしは何年號の頃ぞ。
- 二二一、伊豆七島及び小笠原群島は。何府の管轄に屬したるぞ。
- 二二二、東山道を概括して。其沿革及び

第八編 西海道

西海道は九州島および壹岐、對馬、琉球の諸島より成る。九州島は東北瀬戸内海を隔て、山陽道、四國島を斜に相對し。北と西とは日本海に臨み。東南は太平洋に面す。之を分ちて筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩の九國とし。壹岐、對馬の二島は其西北海中にありて各々一國を成し。琉球諸島は九州島の西南部より點々長く延びて新領土臺灣島に接近し。これまた一國を成す。即ち九州島の九國に壹岐、對馬、琉球の三國を加へ。すべて十一箇國にして。福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄の八縣之を分轄す。

九州は一般に山多くして平地少なし。されども西部の入海筑紫海の沿岸には。肥沃の平野ありて農作に適せり。東部は山嶽重疊せるのみならず。良港なくして交通不便なれば。人口も自然稀薄なり。鐵道の通せるものすべて六線あり。其一是豊前の門司より起りて肥後の八代に至れるもの。其二是八代線の小倉にて分れ。行橋を経て瀬戸内海に臨める宇佐に至れるもの。其三是行橋にて分れ後藤寺に至れるもの。其四是筑前の若松より南走して大隈に至れるもの。

住民の氣風をあげよ。

東山道

二二三、東山道の位置及び境界を問ふ。

二二四、東山道の延長。幅の最も廣き處及び區域の廣さ面積等を詳らかにあげよ。

二二五、東山道を二大部に區分したるは何によりてぞ。あはせて二大部の名稱を問ふ。

二二六、中仙道及び奥羽地方は。本道に於ける何れの部分を占め。何れの方位より何れの方位に連なれる乎。また何々の國々の稱なりや海岸の有無は如何。二大部に分ちて詳らかに之を述べよ。

二二七、東山道には幾許の人口を有する乎。

二二八、東山道は何々の縣に分轄せられたる乎。

二二九、中仙道を三つの地勢に大別し。各部に就きて説明を爲せ。

(これに尙二三の小支線あり)其五は八代線の肥前の鳥栖にて分れ。早岐を経て長崎に至れるもの。(但し大村長與の間は工事中にて未だ接続せず)其六は早岐より佐世保に通せるもの。此くの如く鐵道も四部にのみ敷設せられて東部に一線も通せざるは。地勢のあつから然らしむるところなるべし。

第一章 筑前

筑前の國は。南は筑後と、豊前肥前とに接し。東は豊前に押し。東南の一小部豊後に連なる。而して西と北は一帯日本海に臨む。面積百五十八方里餘。之を分ちて福岡市、精谷郡、宗像郡、遠賀郡、鞍手郡、嘉穂郡、朝倉郡、筑紫郡、糸島郡、早良郡の一市九郡とし。福岡縣の管轄に屬す。

西方の海を玄界灘といひ。北方の海を響灘といふ。共に險海の名あり。地勢概ね平衍にして。遠賀川の沿岸最も農産に適せり。

遠賀川は國內第一の大川にして。源を豊前の境より發し。北流して響灘に注ぐ。流程十八里。灌溉の便大によし。

山の最も著名なるは寶満山(一名郡山)なり。國の南部に位し。山麓

二三〇、奥羽地方の地勢は如何。

二三一、東山道の氣候は如何。中仙道奥羽地方の二つに大別して之を告げよ。

二三二、東山道に於ける交通の有様は如何。道路鐵道の二つに分ちて之を説け。

二三三、近江國の位置を問ふ。

二三四、近江國の山岳を語れ。また膽吹山と其南方なる鈴鹿山脈との間は如何。

二三五、日本第一の湖水を何といふ乎。その位置周圍及び湖畔の有様を記せ。

二三六、近江國の河流を語れ。

二三七、近江國の面積及び郡名を問ふ。

二三八、滋賀縣廳は何れの地にあるぞ。合はせて大津の位置人口及び水陸運輸の有様を語れ。

二三九、大津より彦根に到らんとするべきは。いかなる線路によるべき

には太宰府あり。古へ此地に太宰府を置きて九州全島を統治し。

併せて外交に關する事を司りしかば極めて繁盛なりしが。今は大に衰微して一小市街となれり。菅原道真の藤原時平に讒せられて謫せられしは即ち此地なりとす。天満宮ありて道真を祭れるはこれがためのみ。

福岡縣廳の所在地なる福岡市は。太宰府町の西北にありて博多灣に臨み。博多を合せて一市とす。戸數九千九百餘あり。もと黒田氏の城市にして。門司へは汽車にて二時間半。熊本へは殆ど五時間を要す。

博多の東北部なる箱崎町には。有名なる箱崎八幡宮あり。應神天皇を奉祀せる官幣中社にして。社殿の樓門には醍醐天皇の宸筆を染め結ひし扁額あり。敵國降伏の四大字は神の御稜威と共に今も昔に變らず。

古へは箱崎の海濱より博多灣に沿ひて長く石壘を築き。外寇に備へたりしが。今は頽破したれど尙所々に其遺跡を見るべし。博多灣口に突出したる志賀島には蒙古の耳塚と稱するものあり。

箱崎より東北汽車にて十分の處に香椎驛あり。神功皇后を奉祀せらる官幣大社香椎宮のある處にして。三韓征伐に用ひ給ひし船の帆柱

- 二四〇、彦根に就きての歴史上事蹟は如何。あはせて其人口を問ふ。
- 二四一、大津及び彦根を除きて此國の名邑をあげよ。
- 二四二、長濱の北にある湖水の名。及び此國にて有名なる古戦場の名と事蹟とを示せ。
- 二四三、近江國の物産を語れ。
- 二四四、美濃國の位置及び區域を記せ。
- 二四五、美濃の國中を流るゝ河をあげ。それに従ふ灌溉の便不便。ならびに地味を語れ。
- 二四六、美濃國の面積は幾許。また何々の郡市に分れたるや。
- 二四七、關原は何によりて世に聞えたるや。あはせて其位置を問ふ。
- 二四八、長良川は何を以て有名なりや。合はせて其漁業の有様。及び發源下流の有様を問ふ。
- 二四九、養老の瀧の所在地を示せ。

の化石といひ傳ふるもの今も海濱にあり。これを帆柱石といふ。鐵道は門司より起りたる線の香椎、箱崎、博多等を経て筑後に入れるものと。若松より起りて前の線を折尾に於て交叉せるものとあり。此線直方に於て三つに分れ。一は金田に。一は幸袋に。一は大隈に通せり。

物産の重なるものは。

石炭	博多帯	博多絞	米	麥
大豆	木材	石材	牛	馬
鯛	鹽表			

の類なり。

第二章 筑後

筑後の國は。北は筑前に連なり。西北は肥前に接し。東は豊後に。南は肥後に隣す。而して西の一面は筑紫海に臨む。九州第一の小國にして。面積僅に八十餘方里。之を分ちて久留米市、浮葉郡、三井郡、三瀬郡、八女郡、山門郡、三池郡の一市六郡とし。福岡縣の管轄に屬す。

地勢九州中最も平行にして。北部に高良山東部に釋迦岳の時てるの

- 二五〇、岐阜縣廳の所在地をあげよ。
- 二五一、岐阜市の位置人口商業交通の有様を問ふ。
- 二五二、大垣の位置人口城趾。及び霖雨の際に於ける市街の有様は如何。
- 二五三、赤坂は何を以て著はれたるぞ。合はせて其位置を問ふ。
- 二五四、美濃國の物産をあげよ。
- 二五五、飛驒國はいかなる土地や。
- 二五六、飛驒山脈はいかなる山脈や。合はせて其山脈に屬する著名の山岳を記せ。
- 二五七、飛驒國の河流を語れ。
- 二五八、飛驒國の面積は幾何。また幾つの郡に區別せられたるや。
- 二五九、高山はいかなる處や。
- 二六〇、飛驒國の物産をあげよ。
- 二六一、信濃國の位置。ならびに其面積郡の區劃は如何。
- 二六二、信濃國の山岳。及び河流湖水を

み。他は大抵國境にあり。山の小なるに反して川には九州第一の大河なる筑後川あり。源を肥後、豊後の境なる獵師岳より發し。豊後にて日田川と呼ばれ。西流して國內に入り。遂に此國と肥前との境を流れて筑紫海に入る。流程三十五里。異名を筑紫二郎と呼ぶ。

筑後川の河口に太刀洗石の古蹟あり。南朝の忠臣菊地武光の太刀勢を打ち退け。笑つて血刀を洗ひし跡なりといふ。

筑後川の南岸に久留米市あり。國內第一の都會にして。戸數四千五百餘。有名なる久留米餅の産地とす。維新前の勤王家高山正之諸國を遊歴して此地に來り。時事の日に非なるを見て憤慨措く所を知らず。遂に自殺せり。其墓市内遍照寺にありて。香火の絶ゆることなし。

石炭の産出我國一二を以て數へらるゝ三池炭坑は。國の西南部にあり。前には港灣あり。陸には鐵道ありて。輸出日に盛なり。鐵道は筑前より入り。久留米其他の小驛を経て肥後に去る一線あり。物産の著名なるは。

石炭	久留米餅	紙	油	木蠟
米	麥	大豆	藍	茶

- 二六三、長野は何縣廳のある處乎。その位置人口。東京との汽車線路。及び市街の有様を記せ。
- 二六四、上田の位置人口。並びに交通の有様を記せ。
- 二六五、信濃の名所舊蹟として名高きところを語れ。
- 二六六、信濃國の平地。及び其附近の現象を問ふ。
- 二六七、松本及び飯田の位置人口。市街の景況等を各分ちて説明せよ。
- 二六八、上諏訪はいかなる處ぞ。あはせて交通機關の現状をあげよ。
- 二六九、淺間山はいかなる山乎。合はせて其高さを示せ。
- 二七〇、信濃の物産を問ふ。
- 二七一、信濃國の神社佛閣を語れ。
- 二七二、上野國の面積は幾許。また幾つの郡市に分れたるぞ。
- 二七三、上野國の山岳を語れ。

の類とす。

第三章 豊前

豊前の國は九州の北端に位し。東と南とは豊後に包まれ。西は筑前に接し。北は早瀬海峡を隔て、近く長門と相對し。東北は一面瀬戸内海に臨む。面積およそ百三十五方里。之を分ちて六郡とす。うち企救郡、田川郡、京都郡、築上郡の四郡は福岡縣に管轄せられ。下毛郡、宇佐郡の二郡は大分縣の管轄に屬す。

地勢西北は筑前の平野に連なりてや、平坦なれども。東南に至るに従ひ山嶽相重なりて峻峻なり。

山の最も高きものを彦山(一名英彦山)とす。南方豊後の境に聳え。直立三千四百尺あり。

川の大なるものを山國川とす。源を彦山に發し。東流し北流して瀬戸内海に注ぐ。瀬山陽の記を以て其名を天下に轟かしたる耶馬溪は此上流彦山の麓にあり。奇岩怪石突兀として相並び。天工の妙見るものをして神飛び魂動くの思あらしむ。

山國川の河口近き處に中津町あり。國內屈指の都會とす。

國の北端門司港は。海上僅に二十町餘を隔て、長門の赤間關と相對

- 二七四、上野の河流を語れ。
- 二七五、群馬縣廳の所在地を示せ。
- 二七六、前橋市の位置人口。及び交通の有様市街の景況を問ふ。
- 二七七、桐生伊勢崎はいかなる處ぞ。
- 二七八、高崎は何のある處ぞ。また何を以て著はれたるぞ。合はせて其位置人口。及び交通機關の有様を示せ。
- 二七九、高崎の附近にありて。世に聞えたる山岳及び温泉を語れ。
- 二八〇、上野國の産業は如何。これに従ひて生ずる物産をあげよ。
- 二八一、下野國の周圍は如何。また火山脈に屬する山岳は何々ぞ。合はせて日光山に於ける現象を記せ。
- 二八二、此國の水誌を語れ。
- 二八三、兩毛とは何の稱乎。
- 二八四、下野國の面積は幾許。また幾つの郡市に分かれたる乎。

し。瀬戸内海の咽喉を扼せり。位置此くの如くにして。港内は水深く大船の碇泊に便なるが故に。内外の商船常に輻湊し。我國特別輸出港の一となる。市街の戸數三千五百餘。九州鐵道は此地を起點として南方に延びたれば。市街の繁榮日に益す盛なり。

門司の南汽車にて二十五分の處に小倉町あり。舊小笠氏の城市にして戸數二千八百餘。商業繁盛なり。第十二師團司令部の豫定地にして。また有名なる小倉織の産地たり。

國の東南隅豊後の境にある宇佐町は。宇佐八幡宮の所在地なり。史に曰く。孝謙天皇の御時。僧道鏡天位を窺竊するの志ありしが。宇佐八幡宮の主神阿智磨といふもの。媚ひ倂ひて神勅なりと偽り。道鏡をして天位に即かしめば天下安寧ならんと奏す。天皇和氣清磨を勅使として宇佐に遣はし神勅を乞はしめ給ふ。清磨復命して曰く。我國は開關以來人臣の分定まれり。臣にして天位を望む者は。速に其首を刎ぬべし。神勅此くの如しと。此に於て道鏡の非望を達せしむる能はずして。止みぬと。社殿の高潔等今更筆にするも畏し。

鐵道は北端門司より起りて小倉に至り。此處にて二派に分れ。一は西して筑前に入り。一は南に走りて行橋に至り。此處にてまた二線となり。一は西して後藤寺に至り。一はいよいよ東南に走りて。宇

- 二八五、宇都宮はいかなる處乎。合はせて其人口。並びに市街の景況を問ふ。
- 二八六、宇都宮に次ぐ此國の市街をあげよ。また足利及び足尾の世にあらはれたる所以を語れ。
- 二八七、日光の事を記せ。
- 二八八、下野の物産をあげよ。
- 二八九、磐城國の面積及び名邑を記せ。
- 二九〇、磐城國の山と水とを語れ。
- 二九一、磐城國に於ける舊蹟を語れ。
- 二九二、白河は何事のありし處乎。
- 二九三、白河を除きて此國の名邑を語れ。
- 二九四、磐城の物産は何々ぞ。
- 二九五、岩代國の面積及び郡名をあげよ。
- 二九六、岩代國の山と水とを語れ。
- 二九七、若松はいかなる處乎。合はせて其人口位置をあげよ。
- 二九八、岩代に於ける古蹟の位置。及び

佐に至る。(宇佐町を距ること殆ど五里)九州東部の鐵道は之を終極とす。

物産の重なるものは。

門司關硯	石炭	小倉織	米	麥
生蠟	煙草	麻	貝	鱧

の類なり。

第四章 豊後

豊後の國は。西筑前に接し。西北豊前に連なり。西南肥後に埒し。南は日向に隣す。而して東は速吸海峽を隔て、四國の伊豫と相對し。東北は瀬戸内海に臨めり。面積およそ三百四十方里。之を分ちて西國東郡、東國東郡、速見郡、大分郡、北海部郡、南海部郡、大野郡、直入郡、玖珠郡、日田郡の十郡とし、大分縣の管轄に屬す。地勢は。西部筑後川上流の沿岸、東部大野川の沿岸および沿海の地はやや平衍なれども。其他は山嶽重疊し。殊に肥後、日向の境最も峻嶮なり。

海岸の屈折は頗る甚しく。中央部に凸出して伊豫の佐田岬と相對し。速吸海峽の内門をなしたるを地蔵崎といひ。其南北に灣あり。北に

- 地味を示せ。
- 二九九、福島は何縣廳のある處乎。あはせて其人口を記せ。
- 三〇〇、岩代國に於ける古蹟。及び其他著名の地を語れ。
- 三〇一、岩代國の物産は何々乎。
- 三〇二、陸前國の面積。及び郡市をあげよ。
- 三〇三、陸前の山と水とを語れ。
- 三〇四、仙臺市は何氏の城地たりし處ぞ合はせて其位置人口を示せ。
- 三〇五、仙臺市より東京へ汽車にては凡そ何時間を経て達せらるべきや。
- 三〇六、仙臺市の近傍なる港灣及び風景を語れ。
- 三〇七、陸前國の物産を記せ。
- 三〇八、陸前國の神社佛閣を語れ。
- 三〇九、陸中國の位置面積及び郡市の區別を問ふ。
- 三一〇、陸中國の山水及び沿岸の有様を

あるは大きく之を別府灣(一名豊後灣)といひ。南にあるは小さく之を臼杵灣といふ。

地蔵崎の南には蒲戸崎、鶴見崎あり。鶴見崎は伊豫の南端と相對して速吸海峽の外門をなせり。

山は北部に文珠山あり。豊前の境に田布山あり。日向の境には桑原山、傾山、祖母岳あり。肥後の境には久住山、涌出山等あり。

川は西部に筑後川の上流あり。東部には大野川、大分川あり。共に源を肥後の境に發し。東流して別府灣に入る。

大分川の河口には。大分縣廳の所在地なる大分町あり。戸數二千餘の一市街なれども。國內第一の都會にして商況繁盛なり。

大分町と別府灣とを隔てたる對岸に杵築町あり。地蔵崎の極端に佐賀關町あり。臼杵灣の底部に臼杵町あり。共に國內屈指の都邑にして。杵築、臼杵等は明治十年西南の役の戰場たり。

物産には。

米	麥	煙草	蠟表	苴
豊後絨	樟腦	碇黃	大理石	牛

馬

の類を著名とす。

三二一、盛岡市はいかなる處ぞ。合はせて其位置人口及び交通の有様を問ふ。

語れ。

三二二、陸中國の名邑及び舊蹟を語れ。

三二三、陸中國の寺院を語れ。

三二四、陸中國の物産は何々ぞ。

三二五、陸奥國の位置面積及び郡市の區別は如何。

三二六、陸奥國の山岳を語れ。

三二七、陸奥國の河流及び海岸の有様を語れ。

三二八、弘前市の來歴位置人口。市街の景況。ならびに交通の有様を記せ。

三二九、青森は何官舎のある處ぞ。合はせて其人口。交通の有様。及び市街の景況を問ふ。

三三〇、陸奥國の物産は何々ぞ。

三三一、羽前國の面積及び郡市をあげよ。

第五章 肥前

肥前の國は。九州の西北部に位し。東の一方のみ筑前、筑後に接し。他の三面は海に臨みて半島狀をなせり。面積およそ三百四十万里。之を分ちて二市十四郡とす。うち長崎市、西彼杵郡、東彼杵郡、北高來郡、南高來郡、北松浦郡、南松浦郡の一市六郡は長崎縣之を管轄し。佐賀市、佐賀郡、神崎郡、三養基郡、小坡郡、東松浦郡、西松浦郡、杵島郡、藤津郡の一市八郡は佐賀縣これと管轄す。海岸屈折の甚しきことは九州第一にして。恰も樹木の根幹より數多の枝條を生せるの觀あり。故に入海、錯澗極めて多し。即ち國の東南部は筑後、肥後と相對して筑紫海を抱き其海口には天草島あり。天草島の西は。雲耶山耶の詩によりても有名なる天草洋なり。早崎海峡を以て筑紫海と相通す。筑紫海と共に國の南部を挟みて半島を作れる入海を鯛浦(一名大村灣)といふ。筑紫海は南より北に入り。これは北より南に入れり。鯛浦の海口に佐世保港あり。海軍鎮守府の所在地にして我國重要の軍港とす。北端筑前の境には唐津灣あり。其西に伊萬里灣あり。其底部にある

三三二、羽前國の山と水とを語れ。

三三三、山形縣廳の所在地及び其市街の景況を示せ。

三三四、庄内とは如何なる地方ぞ。

三三五、鶴岡は何氏の城地たりし處ぞ。合はせて其市街の景況。及び人口を記せ。

三三六、新庄はいかなる處ぞ。ならびに其位置人口は如何。

三三七、羽前國の物産をあげよ。

三三八、羽後國の面積ならびに郡市の區別を記せ。

三三九、羽後國の山と水とを語れ。

三三〇、羽後國西方の一面は如何。

三三一、男鹿半島はいかなる處ぞ。詳らかに之を語れ。

三三二、羽後國にて重なる港をあげよ。

三三三、羽後國の火山島及び瀑布を語れ。

三三四、秋田市はいかなる處ぞ。合はせて其位置。市街の形狀景況。な

唐津町、伊萬里町は。共に陶器の製出を以て名あり。

伊萬里灣の口には鷹島あり。弘安年中蒙古の船の覆りし所ぞかし。

史に曰く。元主忽必烈其使者のしぼく斬らるゝを聞きて大に怒り

兵十萬を發して入寇せしむ。元兵まづ對馬、壹岐を侵し。進んで太

宰府に迫らんとす。我兵短艇を以てしぼく襲撃し。敵をして上陸

の追なからしめしかば。元兵遂に退いて肥前の鷹島に據れり。一夜

大風あり。元艦悉く沈没又は破船して溺死するもの算なし。我兵

勢に乗じて進撃し之を應にす。十萬の元兵生きて還るを得たる

もの僅に三人と。

山の高きものは南部に温泉岳、多良岳あり。北部に傾布振山、黒髮

山あり。筑前の境に雷山、深江岳あり。

川には松浦川、武雄川等あれども皆小流に過ぎず。

長崎縣廳の所在地なる長崎市は。國の西南隅にあり。西に長崎灣を

擁して内外の船舶常に其内に輻湊す。我國最古の開港場にして。五

港の一なり。市街の戸數九千五百餘にして。商業最も盛なり。鐵道

は北長與まで通せるのみなれども。一度延長して大村に通ずる時

は。九時間にして門司まで達するを得べく。將來益々繁盛に赴くべ

きこと明かなり。

- 三三五、羽後國に於ける繁華の地。良港。及び名邑をあげ。且つ其位置人口をあげよ。
- 三三六、秋田城趾は何地にありて如何なる歴史を有するや。
- 三三七、羽後に於ける神社佛閣に就きて詳らかに之を語れ。
- 三三八、羽後國の物産を問ふ。
- 北陸道
- 三三九、北陸道の國別。管轄縣の區別。及び人口をあげよ。
- 三四〇、北陸道を北國といふは何によりてぞ。あはせて其位置境界幅員延長面積を問ふ。
- 三四一、北陸道の地勢は如何。
- 三四二、北陸道に於ける交通の有様は如何。
- 三四三、若狹國の山岳。及び沿岸の有様湖水の風景を語れ。
- 三四四、若狹國の面積及び郡名を記せ。

佐賀縣廳の所在地なる佐賀市は。國の東部筑後の境に近き處にあり。もと鍋島氏の城市にして。戸數殆ど五千。門司へは汽車四時間餘にて達す。明治七年江藤新平等の亂を作し、は此地なり。史に曰く。明治六年西郷隆盛、江藤新平等征韓論を主張して容れざりしかば。官を辭して國に歸れり。翌七年二月江藤新平等其黨三千人を集めて佐賀縣廳を襲撃す。朝廷嘉彰親王を總督とし討つて之を平らぐ。之を佐賀の亂といふ。

佐賀の西汽車にて一時間の處に武雄温泉あり。武雄川の沿岸にして景色極めて幽邃なり。鐵道の便開けてより來り浴するもの多し。

國の北端には名護屋港あり。豊臣秀吉征韓の役を起しける時。此地に本營を置きて自ら出陣し。遂に外征の諸將を指揮せし所なり。鐵道は筑前より入りて鳥栖に來り。此處にて二線に分れ。一は南して筑後に入り。一は西南に走り佐賀、武雄等を経て早岐に至り。此處に於てまた二線となり。一は西して佐世保軍港に至り。一は南走して長崎に向ふ。

物産の重なるものは。

唐津燒	伊萬里燒	有田燒	石炭	米
麥	煙草	鯨	鯛	鮎

- 三四五、小濱は何氏の城地たりしや。合はせて其位置及び交通の有様を問ふ。
- 三四六、若狹國の物産は何々ぞ。
- 三四七、越前國の面積は幾許。また何々の郡市に分られたるぞ。
- 三四八、越前國の山水。及び沿岸の有様を問ふ。
- 三四九、福井市の位置人口をあげ。次に其歴史を語れ。
- 三五〇、福井市より東京市へ汽車にて通ふ時は。凡そ何時間を経て達すべきぞ。また福井市は何縣廳のある處ぞ。
- 三五一、敦賀港はいかなる處ぞ。合はせて其位置人口ならびに交通機關を問ふ。また其北端には如何なる城址を存するぞ。
- 三五二、武生はいかなる處ぞ。ならびに其位置人口を問ふ。
- 三五三、三國の位置人口を記し。合はせ

和布 鳥賊の類とす。

第六章 肥後

肥後の國は。北は豊後、筑後に接し。東は一帶日向に墜し。南は大隅、薩摩に連なる。而して西は筑紫海を隔て、肥前と相對す。筑紫海の口にある天草島は此國に屬せり。積面すべて四百六十方里餘。之を熊本市、飽託郡、宇土郡、下名郡、鹿本郡、菊地郡、阿蘇郡、下益城郡、上益城郡、八代郡、葦北郡、球摩郡、天草郡の一市十二郡に分ち。熊本縣これを管轄す。

地勢は西方筑紫海に瀕するの地頗る平衍にして五穀に適すれども。東方日向の境には火山脈連亘して峻嶮を極めたり。

國內第一の高山を阿蘇山とす。國の東北に峙ち我國著名の火山にして。頂上よりは絶えず硫烟を噴出す。高さ六千五百餘尺あり。

其他阿蘇山の西南部には飯田山あり。東南日向の境には江代山、里山峠あり。西南薩摩の境には卯岳、矢筈山あり。

川には菊地川(一名高瀬川)、白川、緑川、球摩川最も大なり。之を肥後の四大河と稱す。

- て其港灣の有様を語れ。
- 三五四、越前の神社佛閣を語れ。
- 三五五、越前國の物産を問ふ。
- 三五六、加賀國は何々の郡市に區劃せられたるぞ。合はせて其面積を問ふ。
- 三五七、加賀國の山岳を語れ。
- 三五八、加賀國の河海及び港は如何。
- 三五九、金澤市の人口及び所在の官衙校舎を記せ。
- 三六〇、金澤市の沿革ならびに生業製造品の種類をあげよ。
- 三六一、釜石港はいかなる處ぞ。其位置は如何。ならびに此國の名邑を問ふ。
- 三六二、加賀國の物産をあげよ。
- 三六三、能登國はいかなる地をいふぞ。其面積郡名を問ふ。
- 三六四、能登國の海岸の有様を詳らかに語れ。
- 三六五、能登國の都會を語れ。

菊地川は源を豊後の境に發し。瀧津運輸の便に富む。名高き肥後米は此沿岸に産するなり。

白川は阿蘇山の北麓より發し。西流して筑紫海に入る。

緑川は日向の境に發し。しばく屈折して白川の南方より筑紫海に注ぐ。

球摩川は我國三急流の一にして。源を日向の境に發し。激湍岩を嘯つゝ西流して八代海に注ぐ。八代海とは天草島に包まれたる入海の名なり。

熊本縣廳の所在地なる熊本市は。白川の北岸にあり。九州第一の大都會にして。戸數一萬三千餘を有し。門司へは汽車六時間半にて達す。もと細川氏の城市なり。今第六師團の營所となれる熊本城は。加藤清正の築造にして要害無二と稱せらる。明治十年の西南の役に賊軍之を圍むこと數月なりしかど。遂に陥ること能はざりき。史に曰く。征韓論破裂して佐賀の亂となり。其餘燼尙所々に残りしが。明治十年二月征韓論の首魁西郷隆盛遂に兵を擧げて熊本城を圍みたり。隆盛初め思へらく。一戦にして陥るゝを得べしと。然るに城堅くして遂に抜くこと能はず。征討の官軍は早くも間近く押し寄せしかば。賊つひに退いて鹿兒島に據る。ゆれば官軍の追撃よく

- 三六六、能登國の産業ならびに物産を語れ。
- 三六七、越中國の區劃及び面積を問ふ。
- 三六八、越中國の山と水とを語れ。
- 三六九、富山市の位置及び人口を問ふ。
- 三七〇、富山市は何官舎のある處ぞ。また古來何を以て世に聞えたるぞ。
- 三七一、高岡はいかなる處ぞ。合はせて其位置人口及び物産をあげよ。
- 三七二、伏木はいかなる處ぞ。合はせて其位置及び其地の有様を問ふ。
- 三七三、東岩瀬新港魚津等はいのく何によりて著はれたるぞ。合はせて此他の名邑をあげよ。
- 三七四、越中國の物産を記せ。
- 三七五、越後國の面積は幾許。また其區劃は如何。
- 三七六、越後國の境界は如何。合はせて其山岳を問ふ。
- 三七七、越後國の海岸を語れ。

急なるため隆盛城山に於て戦死せりと。市内の重なる建物等は當時悉く兵火にかゝりしかど。幾何もなくして面目を新にせり。

熊本市の西南汽車にて一時間餘の處に八代町あり。戸數二千餘にして國內屈指の都邑なり。九州鐵道は此地に止まる。

八代および熊本市の北部には西南の役激戦ありし所多し。中にも第一の激戦地を田原坂とす。田原坂は熊本市の西北汽車四十五分にて達する木葉驛の近傍にあり。先年此坂の上には紀念碑は立ちたり。鐵道は筑後より入り。筑紫海の東岸に沿うて八代に達せる一幹線の物産の著名なるものは。

肥後米	麥	豆	粟	馬
煙草	綿布	石炭	砥石	セメント
銅	朝鮮鮎			

日向の國は西北肥後に據し。西南大隅に連なり。西の一小部薩摩に接し。北は豊後に隣す。而して東および南の小部太平洋に臨む。面

第七章 日向

- 三七八、新潟はいかなる處乎。また何縣のあり處乎。合はせて市街の景況。港内の有様。及び人口を問ふ。
- 三七九、新潟を除き越後國の都會名邑に就きて詳らかに之を語れ。
- 三八〇、越後國の古蹟及び新潟の外の港をあげよ。
- 三八一、越後國の物産を記せ。
- 三八二、佐渡國の位置面積及び郡名を問ふ。
- 三八三、佐渡國の山岳をあげよ。また金北山は何を以て著名なるぞ。
- 三八四、佐渡國の海岸の有様を語れ。
- 三八五、相川はいかなる處ぞ。合はせて其位置生業及び産物を問ふ。
- 三八六、佐渡國には何天皇の山陵ありや。合はせて其所在地を問ふ。
- 三八七、夷町はいかなる處ぞ。また本土と交通盛なる港をあげよ。
- 三八八、佐渡國の物産を記せ。

積五百餘里の大國にして。之を九郡に分ちうち宮崎郡、南那珂郡、北諸縣郡、西諸縣郡、東諸縣郡、兒湯郡、東臼杵郡、西臼杵郡の八郡は宮崎縣の管轄に屬し。南諸縣郡の一郡は鹿兒島縣の管轄に屬す。

地勢西部肥後の境には山脈連亘すれども。東方沿海の地に進むに従ひ次第に平坦なり。されど地味概ね薄瘠にして。米穀に適する平野極めて少なし。

山の重なるものをあげれば。北方に可愛岳、高千穂山あり。可愛岳は西南の役賊軍に取り圍まれたるより史上に著しく。高千穂山は我國開闢のはじめ。天孫の天降り給ひし峰なりといふ古記によりて其名高し。

中部には法華山、三箇山、霧島山あり。霧島山は肥後の阿蘇山と共に。我國著名の火山にして。頂上よりは絶えず硫烟を噴出せり。高き五千五百餘尺。古史に天孫のはじめて天降り給ひし高千穂山とあるは。此霧島山の事なりともいふ。

川には五箇瀬川、美々津川、一の瀬川、大淀川等あり。いづれも源を肥後の境に發し。東流して海に入る。

宮崎縣廳の所在地なる宮崎町は。大淀川河口の北にあり。國內第一

山陰道

- 三八九、山陰道の境界。及び地形を問ふ。
- 三九〇、山陰道の面積は幾許ぞ。また何々の國々に分たれ。何府縣の管轄に屬したるぞ。合はせて其人口を記せ。
- 三九一、山陰道の地勢及び氣候を説明せよ。
- 三九二、山陰道の交通の有様をあげよ。
- 三九三、丹波國の地勢は如何。合はせて山岳を詳らかに記せ。
- 三九四、丹波國は何々の郡に分たれたるや。また現今大市邑の少なきは何を以てぞ。
- 三九五、龜岡と京都との距離。ならびに交通の有様を記せ。
- 三九六、龜岡の外此國の名邑を語れ。
- 三九七、丹波國の物産をあげよ。
- 三九八、丹波國の面積及び郡名を記せ。
- 三九九、丹後の山岳。及び海岸を示せ。

の都會なれども。戸数は僅に三千餘なり。

五箇瀬川の河口には延岡町あり。美々津川の河口には美々津町あり。

一の瀬川の南には佐土原町あり。いづれも國內の小都會にして。西南の役に小戰場たりし地なりとす。

物産の重なるものは。

- 甘藷 椎茸 紙 茶 煙草
- 綿糸 樟腦 鹽 木材 馬

の類とす。

第八章 大隅

大隅の國は。東北日向に接し。東南太平洋に面し。西部は半ば薩摩に連なり。半ば鹿兒島灣を隔て、相對す。鹿兒島灣内にある櫻島。および南方海中に點在せる種子島、屋久島、大島等の列島は皆此國に屬す。面積すべて三百四十五方里餘。之を分ちて薩摩郡、始良郡、桑原郡、東嶺峽郡、西嶺峽郡、南大隅郡、北大隅郡、肝屬郡、大島郡、熊毛郡、馭讀郡の十一郡に分ち。鹿兒島縣之を管轄す。

地勢中央および北部の鹿兒島灣に臨める地はや、平衍なれども。其他は山嶽重疊せり。

- 四〇〇、宮津はいかなる處ぞ。あはせて其人口。市街の景況。及び京都との距離を問ふ。
- 四〇一、天橋立はいかなる處ぞ。合はせて其位置及び景色を問ふ。
- 四〇二、宮津の現状を語れ。又その港を説明せよ。
- 四〇三、丹後國の海岸を語れ。
- 四〇四、丹後國の物産を記せ。
- 四〇五、但馬國の面積は幾許。合はせて郡名を問ふ。
- 四〇六、但馬國の山岳。河流及び海岸の有様を問ふ。
- 四〇七、豊岡は何氏の藩地たりしや。また何を以て著はれたるや。京都との距離。及び附近にて名高き處を語れ。
- 四〇八、出石はいかなる處ぞ。また生野は何によりて著はれたるぞ。
- 四〇九、但馬國の物産を記せ。
- 四一〇、因幡國の地勢を問ふ。

山の重なるものをあげれば。西北に寺尾山あり、東南日向の境に白鹿岳あり。南部には國見岳、横尾山、京岳あり。いづれもさまで高峻ならず。

川は北部に新川あり。源を北境より發し。南流して鹿兒島灣に注ぎ。南部には肝屬川あり。源を中央部に發し。西南に流れて外海に注ぐ。共に小流なり。

北國も日向と同じく大都會に乏し。其や、繁華なるものは。新川の東なる國分町と。其西部なる加治木町とのみ。國分は有名なる煙草の産地にして。加治木は鹿兒島灣内の良港なり。

國の南端に突出したるを佐多岬といふ。薩摩の海門岬と斜に相對して鹿兒島灣の口をなせり。

佐多岬の西南に種子島、屋久島あり。種子島は鐵砲の我國に傳はりたる最初の地として名を知らる。史に曰く。天文十二年葡萄牙人種子島に來り鳥銃を傳ふ。鐵砲の異名を種子島といふは此故なりと。

種子島、屋久島の西南に當りて一群島あり。之を大島群島といふ。僧俊寛の物語によりて世に聞えたる鬼界島は。大島群島の中にあるなり。

- 四一一、因幡國の山と水とを示せ。
- 四一二、因幡國の面積は幾許。また何々の郡市に區劃せられたるや。
- 四一三、鳥取市は何縣廳のある處ぞ。合はせて其人口及び附近の名地を問ふ。
- 四一四、因幡國の物産は何々ぞ。
- 四一五、伯耆國の地勢は如何。また何々の國に境せられたるぞ。
- 四一六、伯耆國の水と山とを語れ。
- 四一七、米子港はいかなる處ぞ。合はせて其人口を問ふ。
- 四一八、伯耆國の海岸に於ける諸般の有様を語れ。
- 四一九、倉吉は何を以て世に知られたるぞ。合はせて其位置を問ふ。
- 四二〇、船上山はいかなる舊蹟を以て著はれたるや。また其の位置は如何。
- 四二一、伯耆の物産をあげよ。
- 四二二、出雲國の面積は幾許。また何々の

物産は。

國分煙草	砂糖	甘藷	茶	麻
金	銅	馬	牛	鯨

の類を著名とす。

第九章 薩摩

薩摩の國は九州の西南端に位し。北は肥後に堺し。東は半ば大隅に連なり。半ば鹿兒島灣を隔て、相對し。東北隅の一小部日向に接す。而して南と西とは外海に臨む。面積二百三十餘方里。之を分ちて鹿兒島市、鹿兒島郡、嶺山郡、日置郡、阿多郡、楯宿郡、川湯郡、願姓郡、給黎郡、甕島郡、薩摩郡、高城郡、南伊佐郡、北伊佐郡、出水郡の一市十四郡とし。鹿兒島縣の管轄に屬す。

中央部と北部には山嶽重疊したれども。川内川の沿岸および三面沿海地方には平夷なるところ少なからず。

山の重なるものは。北部に紫尾山。中央に薩摩山。東南端に海門岳(或は開闢岳ともかく)西南端に野間岳等あり。海門岳は火山にして。霧島火山脈に屬す。

海門岳の南麓には海門岬ありて海中に斗出し。大隅の佐多岬と斜に

- 四二三、出雲國の山岳を語れ。
- 四二四、出雲國の河海を語れ。
- 四二五、出雲國の海岸を語れ。
- 四二六、島根縣廳の所在地をあげよ。
- 四二七、松江市は何氏の藩地たりしや。合はせて其位置人口。ならびに市街の景況を問ふ。
- 四二八、出雲の著名なる神社を語れ。また其所在地は如何。
- 四二九、廣瀬の歴史。ならびに其附近の舊址を語れ。
- 四三〇、出雲國の物産をあげよ。
- 四三一、石見國の地勢并びに地勢によりて來る交通の便不便は如何。
- 四三二、石見の國の山と水とを問ふ。
- 四三三、石見國の都邑及び其附近の現状を語れ。
- 四三四、高津は如何なる處ぞ。合はせて其位置及びその高津山に於ける神社を語れ。

相對して鹿兒島灣の海門をなせり。川の最も大なるを川内川とす。源を日向の西南に發し。西流して海に入る。流程四十六里。九州第一の長流なり。鹿兒島縣廳の所在地なる鹿兒島市は。鹿兒島灣に臨める大市街にして。戸數九千三百餘あり。もと島津氏の城市たり。市の北にある城山は。西南の役西郷隆盛の戦死せし古戰場にて。其墳墓あり。其他國內の小市街を。川内、阿久根、出水等とす。物産にて著名なるは。

甘藷	煙草	薩摩燒	鹽表	金
銀	硫黃	石墨	大理石	樟腦
綿糸				

の類なり。

第十章 壹岐

壹岐の國は九州の西北に位し。肥前の北端を去ること七里の海上にある孤島にして。面積僅に八方里餘。我國最小の國なり。壹岐郡の一郡を置き。長崎縣之を管轄す。東南には印通寺港あり。西南には郷浦港あり。北部には勝本港あり。

- 四三五、石見國の物産をあげよ。
- 四三六、隱岐國の位置面積及び其區劃を説明せよ。
- 四三七、西島及び中島に於ける舊址山陵をあげよ。
- 四三八、西郷港を語れ。
- 四三九、隱岐國の物産を問ふ。
- 山陽道
- 四四〇、山陽道はいかなる地をいふぞ。
- 四四一、山陽道の境界を問ふ。
- 四四二、山陽道の面積は幾許。また何々の國々に分たれ。何々の縣に分轄せられたるぞ。合はせて其人口を問ふ。
- 四四三、山陽道の地勢は如何。其地勢によりて河流の様は如何。
- 四四四、山陽道の氣候を問ふ。
- 四四五、山陽道に於ける雨量は如何。
- 四四六、山陽道に於ける水陸交通の有様を示せ。
- 四四七、山陽道に於ける山と水とを示

り。共に國內の良港にして肥前の諸港と船舶の往復繁し。弘安年中元兵來寇の時。まづ此國に上陸して民物を掠奪し。平景隆奮戦して之に死せしは。我國民の長く忘れざるところなり。物産には。

甘藷	鶏	牛	鯛	鯨
石材				

の類を著名とす。

第十一章 對馬

對馬の國は。九州と朝鮮國との中間に横はれる島國にして。壹岐の西北に位す。上島下島の二つより成り。面積すべて四十四方里。これを上縣郡、下縣郡の二郡に分ち。長崎縣の管轄に屬す。上島には大屋山あり。下島には大立山あり。共に國內の高山なり。下島の西部に嚴原港あり。國內第一の良港にして。漁船商船の出入絶ゆることなし。此港より肥前の長崎へは海路百六裡。壹岐の勝本へは三十一裡。朝鮮の仁川港へは四百九十六裡なり。其他北端には鰐浦あり。西部には伊奈港あり。いづれも國內の良港なり。

- 四四八、山陽道に於ける海邊の現状を語れ。
- 四四九、播磨國の面積は幾許。また何々の郡市に區劃せられたるぞ。
- 四五〇、播磨國の山岳を語れ。
- 四五一、播磨國の河海を語れ。
- 四五二、播磨國の海岸及び海邊の現状を詳らかに記せ。
- 四五三、姫路市の位置及び人口をあげよ。
- 四五四、第十師團の營所は何地に置かれたるぞ。
- 四五五、姫路市の交通機關を問ふ。また市街の北方にはいかなる山岳の時てるぞ。
- 四五六、赤穂は何を以て人に知られたるぞ。あはせて其位置及び人口を問ふ。
- 四五七、赤穂を除きて此國の名邑をあげよ。

此國はもと宗氏の領土にして。豊臣秀吉の朝鮮征伐を企てし時。彼國の地理を明かにして大に我軍に裨益を與へたる宗義智は。即ち其家の一人なりき。

物産は。

馬 雲母 鳥股 鱈 鮭
海草。

の類を著名とす。

第十二章 琉球

琉球の國は。大隅の大島群島の西南に位し。大小五十餘の島嶼長く西南に點在して新領土臺灣に至れり。面積およそ百五十七方里。之を分ちて那覇區、首里區、島尻郡、中頭郡、國頭郡、宮古郡、八重山郡の二區五郡とし。沖繩縣之を管轄す。

地勢によりて全國を二つに分ち。北方を沖繩群島といひ。南方臺灣に近き部分を八重山群島といふ。

沖繩群島の中沖繩島最も大きくして。南北四十里に亘れり。其西南端にある那覇港は市街の戸數八千六百餘。國內第一の都會にして。沖繩縣廳は此處にあり。

- 四五八、播磨國の物産を記せ。
- 四五九、美作國の四面は如何。ならびに山岳の重なるものを問ふ。
- 四六〇、美作國の水運を語れ。
- 四六一、美作國の面積及び郡名を記せ。
- 四六二、津山は何氏の城地たりしや。また何を以て世に知られたるぞ。あはせて其の位置及び人口を問ふ。
- 四六三、西庄には如何なる歴史ありや。その位置は如何。
- 四六四、播磨國の物産をあげよ。
- 四六五、備前國の面積はいくばく。また何々の郡市に區劃せられたるぞ。
- 四六六、備前國の山岳を問ふ。
- 四六七、備前國の河海を示し特に鹿島半島を語れ。
- 四六八、岡山市は何氏の城地たりしや。また何官舎のある處ぞ。あはせて其位置人口。神戸までの汽車

那覇の東一里許の處には首里あり。市街の戸數殆ど五千。もと尙氏の城市にして。今は第六師團の分營を置かる。

八重山群島中大なるものは宮古島、石垣島、入表島とす。

此國氣候頗る温暖にして。年中寒さを覺えず。また風俗も大に内地と異にして。足には履物を着けず。男子も結髪し。女子はよく勞働に服し。炭薪等を賣り行くにも頭上に載して重さを感せずるが如し。性質極めて温順なり。

此國は支那に接近せるを以て。中古一たび支那の正朔を受けたりしが。足利氏の末より再び來貢して變ることなし。後慶長十五年薩摩の島津氏之を征討して其隸屬とし。徳川氏に使聘して明治維新に至れり。

物産の重なるものは。

- 泡盛 琉球絨 甘蔗 藍 砂糖
- 麻 綿 紙 漆器

第九編 北海道

時間。市中の景況。及びその港の有様を記せ。

- 四六九、備前國の物産をあげよ。
- 四七〇、備中國は何々の郡に分れたるぞ。
- 四七一、備中國の山岳をあげよ。
- 四七二、備中國の沖を何といふぞ。また幾つの港を有したるぞ。合はせて玉島港の景況を記せ。
- 四七三、備中の名邑は何々ぞ。あはせて其位置を問ふ。
- 四七四、備中國の物産をあげよ。
- 四七五、備後國の區劃を示し。次に其面積を示せ。
- 四七六、備後國の山と水とを示せ。
- 四七七、備後國の沖を何といふぞ。あはせて其附近の島嶼をあげよ。
- 四七八、備後國の港をあげよ。
- 四七九、福山は何を以て知られたるぞ。また此地より岡山市まで汽車にて通はんとせば。幾時間を要す

北海道は、蝦夷および千島群島より成り我國の北端に位し。西南は津輕海峡を隔て、本州と相對し。北は宗谷海峡を中にして露西亞の樺太島と堺し。西北は千島群島長く連亘して露西亞の東塞加半島に接近す。蝦夷の西南は日本海にして。千島群島の西はオコック海。而して東南は茫々たる太平洋なり。蝦夷本地を分ちて渡島、後志、石狩、天鹽、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室の十國とし。千島群島は別に千島の一國を成し。合せて十一箇國。すべて一の北海道に管轄せらる。

本道の地勢は、高峻なる山脈南北に連亘し。而して千島群島より來れる火山脈これに交叉して十字形をなし。河流は悉く源を此山脈に發して四方に流れ。其左右に肥沃なる平野を作れり。

本道は近世まで未開の蠻地として之を與しめ。其住民もアイヌ種族のみなりしが。明治二年開拓使を設けて開墾に従事し本州よりの移住を奨励せられしかば。自然淘汰の勢に敵しかねてアイヌ種族は次第に減少し。今は殆ど一萬にも足らずといふ。されども曠漠たる大原野。二十餘年間政府の盡力せる開拓事業も。僅に其緒につきたるのみにて。全道到る處遺珠の累々たるを見るの有様なり。人或は北海道を以て我國の寶庫なりといひ。或は無盡藏の寶山なりといふ。理なきにあらざるなり。

- 四八〇、尾道はいかなる處ぞ。あはせて其位置を問ふ。
- 四八一、備後國の物産をあげよ。
- 四八二、安藝國の面積及び郡市をあげよ。
- 四八三、安藝國の山と水とを問ふ。
- 四八四、安藝國の海灣を何といふぞ。其灣口の島嶼を列記し。合はせて倉橋島と本地との間を語れ。
- 四八五、嚴島は日本に於ていかなる景色の内に數へられたるぞ。
- 四八六、嚴島神社は何人の建立せしものぞ。及び此島の有する歴史上事蹟を語れ。
- 四八七、江田島には如何なる校舍ありや。
- 四八八、吳港は何のある處ぞ。
- 四八九、宇品港の現状を記し。あはせて今日の其港を成したる由來を語

べきぞ。合はせて其位置人口及び市街の景況を問ふ。

千島群島はもと露西亞の領土にして。樺太島の南半は我領土なりしが。境界の明かならざるためしばしば紛騷を生ずるにより。明治八年露西亞政府と協議し。樺太島を全く彼に與へ。千島群島を悉く我に收めたり。

人口すでに少なく。加ふるに開墾事業其歩を進めざれば。交通の不便なるはいふまでもなし。鐵道の如きも全道を通じて僅に二百餘哩あるのみ。而して其多くは個人交通の目的を以て敷設せられたるにあらず。石炭、硫黄等の天然物を運搬するの目的によりて成りたるなり。其線は膽振の室蘭より起り。石狩の岩見澤、札幌等を経て後志の手宮に至れり。而してこれに三支線あり。一は石狩の追分驛より分れて夕張の炭礦に至り。一は岩見澤より分れて幌内および幾春別の炭礦に至り。一は同じく岩見澤より分れて空知太および歌志内の炭礦を経て上川に至れるものと是のみ。かく炭礦に至れる支線こそやかく鐵道敷設の目的なれば。之を幹線とする方或は適當なるに近きか。

四九〇、廣島にはいかなる事蹟を留めて
るぞ。其人口。市内に置かれた
る諸官衙。其位置。境界。交通
の便不便。ならびに市街の景況
を記せ。

四九一、汽車にて神戸より廣島に達せん
には。幾許の時間を費やすべき
ぞ。

四九二、吳港の位置。及び今日の港を成
したる由来を示せ。

四九三、安藝國の物産をあげよ。

四九四、周防國の面積及び郡名を問ふ。

四九五、周防國の水と山とを記せ。

四九六、周國の港を列記せよ。

四九七、山口縣廳及び山口高等學校の所
在地を問ふ。

四九八、山口は何氏の城地たりしや。其
位置人口及び廣島との距離を記
せ。

四九九、山口の外。周防國の名邑をあげ

海上の交通は。渡島の函館を中心として膽振の室蘭、根室の厚岸後
志の小樽および本州陸奥の青森其他の諸港へ定期汽船の往復あり。
氣候は國によりて小差あれども。概して寒冷にして。夏も暑熱を感
ずることなく。冬は海氷結して舟を通せざる所多し。殊に千島の極
端最も甚し。されども人類の生活に適せざるまでには至らず。
本道は前述の如く人口稀少にして交通普むからず。農工商共に未だ
發達の域に進まざれば。物産は各國共に大抵似よりたる天産物のみ。
故に一括して左にあげんとす。但し其主要なる産出地等は。更に各
章にて細説すべし。即ち北海道の重なる物産は。

粟	豆	麥	麻	梨
西洋林檎	葡萄	材木	石炭	硫黃
鐵	牛	馬	豚	味噌
醬油	煉瓦	製氷	昆布	魚油
鮭	臘虎	熊		

第一章 渡島

渡島の國は北海道の南端に位し。北は膽振と後志との二國に連なり。

五〇〇、岩國は何を以て知られたるぞ。
合はせて其人口を問ふ。

五〇一、三田尻はいかなる處ぞ。また何
氏の支藩たりしや。合はせて其
人口を問ふ。

五〇二、周防國の物産を記せ。

五〇三、長門國の面積は幾許。また何々
の郡市に分れたるぞ。合はせ
て其位置を問ふ。

五〇四、長門國の河流山岳嶼を記せ。

五〇五、赤間關はいかなる港ぞ。あはせ
て其別名。及び世界の史上に其
名を留めたる所以。港内の有様
市街の景況。ならびに人口を問
ふ。

五〇六、赤間關の市内にある山陵。及び
宮の名を記せ。

五〇七、萩の位置人口及び市街景況の沿
革を問ふ。

五〇八、壇の浦の位置ならびに其歴史を

南は津輕海峽を隔て、本州の陸奥と相對し。西は日本海に臨み。東
には惠山岬の突出あり。膽振の繪鞆岬と斜に相對して噴火灣（一名
膽振灣又は内浦ともいふ）を抱く。噴火灣の名は周圍に噴火山多き
を以ての故なり。國の面積は三百十方里餘。之を分ちて函館區、
龜田郡、上磯郡、茅部郡、松前郡、檜山郡、爾志郡の一區六郡とす。
國の南部は海水灣入して東西に分れ。其東端を惠山岬といひ。西端
を白神岬といふ。共に津輕海峽の門戸をなせり。

惠山岬と白神岬との間にある灣を函館灣といふ。我國五港の一なる
函館港は即ち此内にあり。港内水深く波穏にして天然の良港なる
が上に。位置北海道の門戸に當れるを以て。貨物の集散船舶の往來頗
る頻繁なり。横濱へは海上五百二十九哩。青森へは五十九哩の道と
す。市街の戸數は一萬六千餘ありて。此處に北海道支廳を置かる。
函館の北一里の處に五稜郭あり。明治維新の際。榎本武揚、大島圭
介等の據りて以て官軍に抗せし所なり。徳川氏の築造にかゝる五稜
形の砲臺は其用を失ひ。今は氷の製地となる。

白神岬の西北にある福山港は古名を松前といふ。もと松前藩の城市

記せ。

五〇九、長門國の物産をあげよ。
南海道

五一〇、南海道は幾つに大別せらるぞ。

五一一、四國とは何々の國々をいふぞ。合はせて其地形及び四邊の有様を問ふ。

五一二、南海道は何々の縣に分轄せられたるぞ。ならびに其面積及び人口は如何。

五二三、南海道の地勢を詳らかに語れ。

五二四、南海道の氣候を問ふ。

五二五、淡路と紀伊との間に於ける交通の有様は如何。

五二六、紀伊國は如何に區劃せられたるぞ。次に其面積をしるせ。

五二七、紀伊國の山岳を詳らかに語れ。

五二八、紀伊國の河海を記せ。

五二九、紀伊國の海岸の有様を詳らかに記せ。

にして其繁華本道第一なりしが。今は大に衰微せり。西部海岸の中央には江刺港あり。これまた良港なり。

第二章 後志

志後の國は。渡島の北に連なり。東は一帶膽振に墾し。東北の一部石狩に接し。北と西とは日本海に面す。面積およそ三百九方里。之を分ちて久遠郡、奥尻郡、太樺郡、瀬棚郡、壽都郡、島牧郡、歌樂郡、磯谷郡、小樽郡、高島郡、忍路郡、余市郡、古平郡、美濃郡、積丹郡、古宇郡、岩内郡の十七郡とす。

國內到る處山勢起伏して平地に乏し。されどまた取り出で、いさへき高峰もなし。

川には後志川、利別川あり。後志川は源を膽振に發し。利別川は國の東部に接し共に西流して日本海に注ぐ。

國の北方海中に突出したる部分を積丹半島といひ。其北端を積丹岬といふ。

積丹半島の東部には小樽港あり。本道西海岸第一の良港にして。北陸道、山陰道等の諸港より來る貨物は皆此地に集まり。港内常に輻湊せり。市街の繁盛函館に次ぐ。鐵道の便によれば。札幌へは一時

五二〇、和歌縣應は何れの地に置かれたるぞ。

五二一、和歌山市は何人の城地たりしや。あはせて其位置人口ならびに市街の景況を問ふ。

五二二、紀伊國の名色をあげよ。

五二三、紀伊國の神社佛閣を語れ。

五二四、紀伊國の物産は何々ぞ。

五二五、淡路國の位置面積および區劃は如何。

五二六、淡路國の山と水とを問ふ。また淡路の北端をば何といふぞ。

五二七、淡路國には幾つの港ありや。港の名及び其位置を問ふ。

五二八、由良海峡及び紀伊海峡とはおの如何なる處をいふや。

五二九、淡路國の物産を問ふ。

五三〇、阿波國の位置は如何。また何々の郡市に分れたるぞ。および其面積をしるせ。

五三一、阿波國の山岳を問ふ。

半。室蘭へは九時間にて達すべし。壽都は西海岸の中部にありてこれまた良港なり。鐵道は。小樽の西なる手宮より小樽を経て石狩に入れり。

第三章 石狩

石狩の國は。南膽振、日高に接し。東は北見、十勝に墾し。北は凸出ありて深く天鹽と交錯し。而して西は一部後志に連なり。一部日本海に臨む。北海道最大の國にして。面積およそ八百餘方里。之を札幌區、札幌郡、空知郡、夕張郡、樺戸郡、雨龍郡、上川郡、石狩郡、厚田郡、濱益郡の一區九郡に分つ。

國境には山嶽重疊すれども。國內は石狩川縱横に貫通して。肥沃なる大平野をなせり。

石狩川は源を東境なる石狩岳に發し。雨龍川、空知川、夕張川、千歲川等の諸流を合せ。西南流して日本海に入る。流程百六十七里。實に北海道のみならず我國第一の大河なり。雖も此川の名産とす。山の重なるものをあぐれば。東方十勝の境に石狩岳。十勝岳あり。東南膽振の境に夕張岳あり。いづれも北海道中屈指の高山なり。國の西南部にある札幌區は。北海道廳の所在地にして。戸數五千五

- 五三二、阿波國の河海を示せ。
- 五三三、阿波國の海邊に於ける諸種の有様を詳らかに記せ。
- 五三四、徳島市は何氏の舊城地なりしや。また何縣廳のある處を。合はせて市街の景況ならびに其人口を問ふ。
- 五三五、阿波國の名邑をあげよ。
- 五三六、阿波國の物産をしるせ。
- 五三七、讃岐國の面積及び區劃を問ふ。
- 五三八、讃岐國の山岳をあげ並に琴平神社を語れ。
- 五三九、讃岐國の河流をあげよ。
- 五四〇、讃岐國の海岸の有様は如何。あはせて其岬灣及び港を問ふ。
- 五四一、香川縣廳の所在地を問ふ。
- 五四二、高松市の人口及び市街の景況をしるせ。
- 五四三、高松市の東北には如何なる山岳を控へたるぞ。あはせて其位置及び歴史を問ふ。

百餘。市街繁盛にして鐵道は東西に通じ。室蘭へは七時半。小樽へは一時半にて達すべし。最近第七師團司令部を此地に置かれたり。石狩川の河口にある石狩港は國內の良港なり。

石狩川の上流にある上川、夕張岳の北部なる幌内、幾春別。更に其北部なる空知太、歌志内等は。皆有名なる炭礦の所在地にして。石炭又は硫黃の産出我國第一なりといふ。此等の數箇所へは皆鐵道の敷設ありて。採掘運送頗る盛なり。

此國鐵道の敷設最も多く。室蘭より來りたる線は岩見澤にて前記各炭礦への支線を分ち。手宮より來れる線は札幌を経て此處に會せり。

第四章 天鹽

天鹽の國は南石狩と相交錯し。東南は一帶北見に包まれ。西は一面日本海に臨む。南方石狩の浸入部を合すれば。地形殆ど正三角をなせり。面積およそ五百六十餘方里。之を分ちて増毛郡、留萌郡、苫前郡、天鹽郡、中川郡、上川郡の六郡とす。

國境には山嶽連亘すれども。沿海の地および北部天鹽川の兩岸は極めて平衍なり。

天鹽川は北海道第二の大河にして。源を石狩岳の北部に發し。西北

- 五四四、屋島は何天皇の舊内裏ありし處なるぞ。
- 五四五、高松は何氏の城地たりしや。また今は何師團の司令部を置かれたるぞ。
- 五四六、高松の外讃岐國の名邑をあげよ。
- 五四七、讃岐國の物産をしるせ。
- 五四八、伊豫國の面積は幾許。また何々の郡市に區劃せられたるぞ。
- 五四九、伊豫國の山岳河流ならびに温泉をあげよ。
- 五五〇、伊豫國に於ける海邊の有様を問ふ。
- 五五一、愛媛縣廳は何地に置かれたるぞ。
- 五五二、松山市は何氏の舊城地なるぞ。合はせて其人口。交通の有様。及び近傍の温泉を示せ。
- 五五三、伊豫國の名邑ならびに其位置をしるせ。

に流れて日本海に注ぐ。流程七十里なり。極めて緩流なるを以て。瀧瀬舟行の便殊によく。且漁利も多し。

山は東端北見の境に聳えたる天鹽岳最も高し。

海岸には増毛、留萌、鬼鹿、苫前等の數港あれども。いづれも大船を泊するに足らず。而して此他に市街を稱すべきもの一もなし。

第五章 北見

北見の國は。北海道の北端に位せる細長の國にして。西は天鹽、石狩に界し。南は十勝、釧路に接し。東は根室に連なる。而して北は一帶オコクク海に臨み。西北は宗谷海峽を隔て、露西亞の樺太島と相對す。面積七百五十餘方里。之を分ちて宗谷郡、枝幸郡、利尻郡、禮文郡、網走郡、常呂郡、斜里郡、紋別郡の八郡とす。

地勢南部峻峻にして北部沿海の地は次第に低下せり。されど砂地に於て農作に適せず。

川の最も大なるは常呂川にして。源を南境常呂山に發し。北流して海に入る。

常呂川の西部には積間湖あり。周圍二十里ありて北海道第一の太湖なり。其東端崩壊して海に通ず。山の最も高きものは常呂山なり。南

- 五五四、伊豫國の物産をあげよ。
- 五五五、土佐國の面積及び區劃を問ふ。
- 五五六、土佐國の山岳及び河流をあげよ。
- 五五七、土佐國の岬灣ならびに港をしろせ。
- 五五八、高知市は何氏の城地たりしぞ。また今は何縣廳のある處ぞ。其人口及び水陸の便不便を語れ。
- 五五九、浦戸の位置を問ふ。
- 五六〇、土佐國の物産をあげよ。
- 西海道
- 五六一、西海道は何々の國々より成りたるぞ。
- 五六二、九州とは西海道の内何々の國々をいふぞ。其位置及び境界を問ふ。
- 五六三、西海道的面積は幾許。また何々縣に分轄せられたるぞ。
- 五六四、九州に於ける沿革の大要を述べよ。

部石狩の境に幾ゆ。

國の北端を宗谷岬といふ。オコック海と日本海との通路なる宗谷海峽を隔て、樺太島と近く相對す。

國內の人口は極めて少なく。隨ひて小市街とも稱すべきものなく。僅に網走、紋別、宗谷等の小港に寂寥なる漁村を見るのみ。

第六章 膽振

膽振の國は。北石狩に連なり。東は日高に隣し。西は一帶後志と相交錯し。南は一部渡島に接し。他は噴火灣を隔て、相對せり。面積四百五十餘方里。之を分ちて山越郡、室蘭郡、虻田郡、有珠郡、幌別郡、勇拂郡、白老郡、千歳郡の八郡とす。

南海岸の中央に突出したる岬を繪鞆岬といふ。渡島の惠山岬と斜に相對して噴火灣を抱けり。

繪鞆岬の北には室蘭港あり。北海道東海岸の良港にして。近年軍港に指定せられたれば。海軍鎮守府の設置を見るも遠きにあらざるべし。且炭礦鐵道は此地を起點として石狩に通じ。海陸の交通至便なれば將來益す繁盛に赴かんとす。

室蘭の西北部には有珠岳あり。其西北に後方羊蹄山あり。共に國內

- 五六五、九州の地勢を詳らかに語れ。
- 五六六、西海道の氣候は如何。
- 五六七、西海道の他道と異なる點をしろせ。
- 五六八、九州鐵道を語れ。
- 五六九、九州に於ける街道を案内せよ。
- 五七〇、西海道の海岸を問ふ。
- 五七一、筑前國は何々の郡市に區劃せられたるぞ。あはせて其面積を示せ。
- 五七二、筑前國に於ける歴史を語れ。
- 五七三、筑前國の山岳及び河流を詳らかにしろせ。
- 五七四、筑前國の海岸を洩らす語れ。
- 五七五、筑前國にて有名なる温泉は何々ぞ。
- 五七六、福岡縣廳のある地を何といふぞ。
- 五七七、福岡市の位置は如何。また何氏の城地たりし處ぞ。其人口を示せ。

の高山にして火山脈に當る。室蘭の外に都邑とも稱すべきは。東南岸にある苦小牧の小港のみ。鐵道は室蘭より海岸に沿うて苦小牧に至り。北に折れて石狩に入る。

第七章 日高

日高の國は。北海道東部海岸の中央に位し。北の一分部石狩に接し。西北は膽振に連なり。東北は十勝に埒し。東および西南一帯日本海に臨めり。面積三百九十餘方里。之を沙流郡、新冠郡、靜内郡、浦河郡、樺皮郡、幌泉郡、三石郡の七郡に分つ。

地勢東北十勝の境には山嶽連亘したれども。西南沿海の地は平夷にして。且氣候溫暖なる故。牧畜業には最も適せり。

國の東南端は銳角をなして太平洋中に突出す。之を襟裳岬といふ。北海道を南北に連亘せる大山脈は。此岬頭より起りて北見の宗谷岬より至れるなり。

海岸は平坦にして良港なく。人口は稀少にして都邑を稱すべきものなし。

- 五七八、博田港は如何なる物産を以て世に知られたるぞ。また如何なる港ぞ。
- 五七九、箱崎及び香椎にはおのく何神を祭れる社ありや。
- 五八〇、太宰府の位置は如何。また其歴史は如何。
- 五八一、筑前國の物産をあげよ。
- 五八二、筑後國の面積及び郡市を問ふ。
- 五八三、筑後國の山と水とを語れ。
- 五八四、久留米市は何氏の封地たりしぞ。あはせて其位置人口をあげよ。また久留米の名は何を以て聞えたるぞ。市内には何人の墳墓ありや。
- 五八五、筑後國の名邑をあげよ。
- 五八六、柳河は何氏の城地たりしぞ。大牟田の景況は如何。
- 五八七、筑後國の物産をしるせ。
- 五八八、豊前國の面積は幾許。また何々の郡に區劃せられたるぞ。

第八章 十勝

十勝の國は。西南日高に接し。西北石狩に連なり。北は北見に。東は釧路に境す。而して東南は弓形をなして太平洋に臨めり。面積は六百六十餘方里にして。之を廣尾郡、當麻郡、中川郡、十勝郡、河西郡、河東郡、上川郡の七郡に分つ。國境の山脈に包まれたれども。國內には十勝川縦横に貫通して。石狩川沿岸の如く肥沃なる大平野をなせり。されども開拓事業未だ歩を進めず。隨ひて移住人民も極めて少なく。現今の戸數僅に千二百に満たず。國の西北石狩の境に屹てる高山を十勝岳といひ。西部日高の境にあるを芽室山といふ。十勝川は源を十勝岳より發し。音更川、利別川、燃別川等の諸流を合せ。東南に流れて海に入る。流程四十四里。北海道第三の大河なり。海岸には港灣なく。内地には都邑なし。

第九章 釧路

- 五八九、豊前國の山岳及び河流をしるせ。
- 五九〇、耶馬溪はいかなる處ぞ。其位置及び其地の大要を示せ。
- 五九一、豊前國の港をあげよ。
- 五九二、小倉は何氏の城地たりし處ぞ。また何師團司令部のある處ぞ。あはせて其所在を問ふ。
- 五九三、門司はいかなる處ぞ。また其景況は如何。
- 五九四、宇佐にはいかなる歴史ありや。また何神社のある處ぞ。
- 五九五、豊前國の物産は何ぞ。
- 五九六、豊後國の面積ならびに區劃を問ふ。
- 五九七、豊後國の山岳をあげよ。
- 五九八、豊後國の河流及び温泉を語れ。
- 五九九、豊後國の海岸を語れ。
- 六〇〇、大分はいかなる處ぞ。また何縣廳のある處ぞ。
- 六〇一、大分の外豊後國の名邑をしる

釧路の國は。西十勝に接し。北は北見に接し。東は根室に隣す。而して南方一帯太平洋に面す。面積は五百七十餘方里。之を分ちて厚岸郡、釧路郡、白糠郡、川上郡、阿寒郡、足寄郡の六郡とす。地勢甚だよく十勝に似て。國境は山嶽に包まれ。國內には久壽里川縦横に貫通して平野をなせり。されども砂地にして十勝の肥沃なるに似ざるは惜むべし。北部には雄阿寒岳、雌阿寒岳あり。雄阿寒岳は火脈に當れども未だ噴火せず。雌阿寒岳は盛に硫煙を噴出せり。兩阿寒岳の中間には阿寒湖あり。其東北には釧路湖あり。大さ北見の積間湖に次ぐ。久壽里川は。源を釧路湖の北部なる釧路岳に發し。南流して海に入る。流程三十七里にして。北海道第四の大河なり。久壽里川の河口にある釧路港は。特別輸出港にして。多量の硫黃を輸出す。釧路港の東部には厚岸港あり。灣は深く屈入し。水は深くして極めて良港なり。釧路湖の南なる硫黃山は。我國第一の硫黃の産地にして。此地より南方標茶まで二十六哩間には鐵道を敷設して運搬に便せり。釧路港

- 六〇二、肥前國の面積は幾許。また何々の郡市に區劃せられたるぞ。
- 六〇三、肥前國の山岳を問ふ。
- 六〇四、肥前國の河海を問ふ。
- 六〇五、肥前國の半島を列記し。且つ各その方位を示せ。
- 六〇六、肥前國の岬灣及び諸港を列記し合はせて諸港の所在を示せ。
- 六〇七、長崎はいかなる港ぞ。其港内の景況を問ふ。
- 六〇八、有明沖とはいかなる灣入の稱ぞ。あはせて其沿岸の諸港を語れ。
- 六〇九、肥前國の島嶼に就きて學び得たる所を詳らかに語れ。
- 六〇一、長崎は何縣廳のあるところぞ。また何官舎を置かれたるぞ。あはせて其沿革及び市街の景況を問ふ。
- 六一一、佐賀縣廳の所在地を問ふ。

より輸出するものは即ちこれなり。

第十章 根室

根室の國は。蝦夷島の東端に位し。南と西とは釧路に包まれ。西北は山脈を以て北見と堺す。而して東は海水凹入して魚尾狀をなし。千島の國後島は近く其前に横たはれり。蝦夷島中最小の國にして。面積二百三十九方里。之を分ちて根室郡、花咲郡、野付郡、標津郡、目梨郡の五郡とす。

地勢北方には山嶽連亘すれども。西南は概ね平地なり。されど砂地にして農作に適せざること釧路に同じ。

國の北端を知床岬といひ。東南端を納沙布岬といひ。兩岬の中間に匙の如く曲り出でたるを野付岬といふ。

野付岬より知床岬に至る間の海岸は。國後島の西北岸と並行せり。此間の海峡を根室海峡といふ。

納沙布岬と野付岬と相對して抱ける灣を根室灣といひ。此内に根室港あり。函館へは海路二百九十五哩。室蘭へは二百十六哩にして東部海岸の要港なれども。冬季は氷結して全く用をなさず。

根室港の背部即ち外海岸には花咲港あり。これまた一良港なり。

- 六一二、佐賀は何氏の城地たりし處ぞ。また何鐵道の過ぐる處ぞ。
- 六一三、肥前國に於ける特別輸出港ならびに其輸出品をあげよ。
- 六一四、名護屋の歴史を語れ。
- 六一五、肥前國の名邑をあげよ。
- 六一六、有馬及び伊萬里は何を以て著名なるぞ。
- 六一七、肥前國の物産を問ふ。
- 六一八、肥後國の面積及び區劃をしるせ。
- 六一九、肥後國の山岳を詳らかにし。特に阿蘇山に於ける現象を洩らす語れ。
- 六二〇、肥後の河海を詳らかに語れ。
- 六二一、肥後國の島嶼ならびに其ほとりの海洋及び港を語れ。
- 六二二、肥後國の沿革をしるせ。
- 六二三、熊本市は九州に於ていかなる位置を有する市街ぞ。また如何なる官衙校舍のある處ぞ。何氏の

第十一章 千島

千島の國は北海道の東北に羅列せる大小三十二島より成り。南端なる國後島は。根室海峡を隔て、根室の國と近く相對し。北端なる占守島は。久留里海峡を隔て、露西亞の東塞加半島と堺す。島の大なるものは。國後、擇捉、得撫、新知、捨子古丹、加亞蓮古丹、温稱古丹、波羅茂知、占守、阿頼度の諸島にして。點々長く羅列し。西北にオコック海を抱擁し。東南太平洋に面す。面積すべて一千三十三方里餘。之を九郡に分つ。國後郡、擇捉郡、振別郡、沙那郡、蓋取郡、得撫郡、新知郡、色丹郡これなり。

得撫島より北は全く無人島にして。南部の各島も人口極めて少なく。合計未だ一千人に満たず。近年海軍大尉郡司成忠報効議會を設立して。數十人の會員と共に占守島附近の無人島に渡航し。熱心開拓に従事せり。此事業もし成らば。我軍備上に大裨益を與ふべきこと必せり。

千島列島は火山脈の屈起せるものなれば。各島火山數極めて多く。殆ど五十を以て數へられんとす。

氣候寒冷にして。冬は各島の港灣悉く氷結す。

第十編 臺灣

城地たりしや。合はせて市街を經過する河流及び鐵道を記せ。

六二四、熊本城は何人の築きしものぞ。西南戦争の際の歴史は如何。また今は何のある處ぞ。あはせて其所在地を問ふ。

六二五、熊本市は西南戦争の際いかなりしぞ。また今は其景況如何。

六二六、肥後國の名邑ならびに特産輸出港をあげよ。

六二七、肥後國の物産を問ふ。

六二八、日向國の面積は幾許。また如何に區劃せられたるぞ。

六二九、日向國の山岳を語れ。

六三〇、日向國の河海を語れ。

六三一、日向國の海岸及び其ほとりの島嶼海洋を示せ。

六三二、高千穂宮のありし處は何く。また何天皇の都なりしや。

臺灣は。琉球の西南に位せる一大島にして。東は太平洋に臨み。西は臺灣海峡を隔て、支那の福建省に對し。其間に澎湖諸島の點在せるあり。南北の長さ殆ど百里。東西最も廣き處にて三十里。面積およそ二千三百方里ありて。殆ど九州に匹敵す。

本島は明治二十七八年の役の結果として。清國より受取りたる新領土なれども。風俗、習慣の大に内地と異なるを以て。特別の政治を布き。總督をして大權の一部を行はしむることとなされたり。

地勢をいへば。一大山脉ありて南北に貫通し。其西部は海岸に至るに従ひ。次第に傾斜して一大平原をなせども。東部は山岳いよく重疊して峻嶽を極めたり。其大山脉の最高峰は一萬二千八百餘尺に達し。富士山より高きこと殆ど四百尺なり。天皇陛下閣召していたく之を愛でさせ給ひ。名を新高山とつけさせ給ひぬ。舊名はモリソン山といひしなり。

新高山の北方には秀枯嶽山、牛困山、合歡山、畢祿山、シルブキヤ山等並び聳え。南部には那大山、卑南山、大澤溪山等あり。いづれも一萬内外の高度を有す。されども探險調査未だ行き届かざれば其詳細を知ること能はず。

ぞ。

六三四、宮崎縣廳の所在地および其人口は幾許。

六三五、宮崎の外日向國の名邑を記せ。

六三六、日向國の物産をあげよ。

六三七、大隅國の面積及び區劃を問ふ。

六三八、佐田岬の方位及び航海の便を助くる機關を問ふ。

六三九、種子島の地形ならびに周圍は如何。あはせて此島に於ける歴史を問ふ。

六四〇、大島は如何なる事蹟によりて知られたるぞ。其位置及び周圍を問ふ。

六四一、種子島及び大島の外日向國と薩摩國との南海に於ける諸島嶼。及び其の位置周圍構造等。おのく學び得たる所に就きて之をしるせ。

六四二、また右の諸島嶼中。日向國に屬するものと薩摩國に屬するものと。

高山の多きに反して大河は一もあることなし。其や、大なるものを淡水河とす。源をシルブキヤ山より發し。新店河、基隆河等を合せ北流して海に入る。其河口には淡水港あり。開港場にして其名は高けれども。港内土砂沈澱して。滿潮の時にあらざれば大船を通せしめず。

海岸の屈折は極めて少なく。唯東北および南端は數箇の小港灣あるのみ。

全島の管轄、區劃初めは三縣十一支廳なりしかども。後改めて六縣三廳とし。更に又三縣三廳とせられたり。之を臺北縣、臺中縣、臺南縣、宜蘭縣、臺東廳、澎湖廳とす。其管轄區域は。臺北縣は本島の北端一帯。臺南縣は南端一帯。而して其中間大山脉を境として。西部は臺中縣。東部は宜蘭、臺東の二廳之を分轄す。澎湖廳は別に澎湖諸島を管轄す。

臺灣第一の都會は臺北にして。島の北部にあり。臺灣總督府および臺北縣廳の所在地にして頗る繁華を極め。鐵道は東西に通じ。電氣燈は街頭に輝き。人力車は縱横に馳す。市街の周圍に繞らしたる城壁は。明治二十八年まで臺灣の巡撫たりし劉銘傳の築造なり。殆ど

との區別を示せ。

- 六四三、日向國に於ける大都會の有無は如何。其名邑をあげよ。
- 六四四、日向國の山岳をしるせ。
- 六四五、日向國の物産を問ふ。
- 六四六、薩摩國の面積は幾許。また何々の郡市に分れたりや。
- 六四七、薩摩國の山岳を問ふ。
- 六四八、薩摩國の河海を語れ。
- 六四九、甌島長島獅子島等の所在地を問ふ。また此等の諸島はいかなる灣を擁したるぞ。
- 六五〇、鹿兒島灣は何々の島嶼を包みたるぞ。また櫻島中山岳は如何。あはせて鹿兒島の東岸。及び西岸に於ける諸港をあげよ。
- 六五一、薩摩國の岬をあげよ。
- 六五二、鹿兒島は何縣廳のある處ぞ。其位置人口ならびに周圍の有様を示せ。
- 七五三、城山は如何なる歴史を有する

七萬の人口を有す。

臺北の西南には艦舫あり。西北には大稻埕あり。共に繁華の市街にして商業頗る盛なり。殊に大稻埕は茶の製造盛にして。合衆國および獨逸の領事館あり。

東北より東北九里許の海岸にある基隆港は。三面山を負ひて北の一面のみ海に臨み。臺灣第一の良港にして内地より渡航するものは皆此地に上陸するが故に。市街頗る繁盛なり。されども港口廣きに過ぎて。北風強き時船舶の安全ならざるは惜むべし。港の東北海中には基隆島および西樓山島ありて舟人の目標となる。

基隆より東南部に當りて。遠く海中に凸出せるを三貂角といふ。明治二十八年五月わが臺灣征討の軍隊の初めて上陸せし所なり。

基隆の西北部にある海角を富基角といふ。これ臺灣の最北端にして。其西南部には即ち淡水河口の淡水港あり。

臺北の東南二十里の處に宜蘭あり。宜蘭廳の所在地にして東海岸の一部邑なり。

宜蘭と遙に東西相對して新竹あり。もと新竹縣廳の置かれたる地にして。市街の周圍は臺北の如く城壁を繞らしたり。此近傍は全島中最もよく田野の開けたる所にして農産物頗る多し。

ど。其位置をも記せ。

- 六五四、薩摩國の名邑をあげよ。
- 六五五、薩摩國の物産を問ふ。
- 六五六、壹岐國の位置面積周圍郡名山岳ならびに名邑をしるせ。
- 六五七、壹岐國の物産は何々ぞ。
- 六五八、對馬國はいかなる海峡を隔て、壹岐國及び朝鮮と相對せりや。あはせて其位置及び成立を問ふ。
- 六五九、對馬國の面積は幾許。また何々の郡に區劃せられたるぞ。
- 六六〇、嚴原は何氏の城地たりしぞ。また今は何官廳を置かれたるぞ。
- 六六一、對馬國の物産をしるせ。
- 六六二、琉球國の位置。面積及び區劃を問ふ。
- 六六三、琉球國の一名を記し。合はせて其歴史を示せ。
- 六六四、琉球國の地勢及び山岳を語れ。
- 六六五、琉球國の地味及び氣候を示せ。
- 六六六、沖縄縣廳の所在地を問ふ。

新竹より二十餘里の南方。殆ど全島の中央部に位して臺中あり。臺中縣廳の所在地なり。城郭の壯大を以て推すも。もと島中の大都會なりしことも明かなり。されども今は極めて寂寥となりぬ。

其西南二里の處に彰化あり。周圍には堅牢なる石壁を繞らし。また西海岸の一都邑なり。

彰化は。彰化と南北相對したる都邑にして。周圍に石壁を繞らしたる事また前者に同じ。

嘉義の西南海岸にある臺南は。臺南縣廳の所在地なり。周圍に石壁を繞らすと臺北其他の市街に均し。此地とも鄭氏の居城を構へし所にして。以後永く中央政府の所在地となり。臺灣第一の都會なりしが。我總督府の臺北に置かるゝに及び。其繁華一步を譲るに至れり。されども尙南部商業の中心として。臺灣第二の都會たるを失はず。

臺南市街の西南に連なりて安平港あり。開港場にして砂糖、樟腦の輸出盛なり。

臺南より南十里の處に鳳山あり。もと鳳山縣廳のありたる地にして。また南部の一都會なり。

鳳山の西南三里の處には打狗港あり。古へは有名なる貿易港にして。砂糖の輸出頗る盛なりしかども。港内土砂沈澱して船舶の出入大に

六六七、那覇港の位置及び人口を問ふ。
六六八、首里は何氏の城地たりしぞ。また何師團分營ある處ぞ。其位置及び人口をあげよ。

六六九、琉球國の名邑をしるせ。
六七〇、宮古島の位置大さ。その近海の有様。ならびに港を語れ。

六七一、沖縄島宮古島のほかの島嶼。及びその島嶼に就きて各の位置大さを語れ。

六七二、琉球國の物産をしるせ。
北海道

六七三、北海道は何々の國々より成れりや。また古は之を名づけ何と稱せしや。

六七四、北海道の面積及び人口は幾許。また如何なる官廳によりて統轄せられたるぞ。あはせて人烟粗密の如何を問ふ。

六七五、北海道の地形は如何。また地形地勢によりて如何に大別せられ

不便になりしかば。繁盛また當時の如くならず。

大山脈以東の高地には。凶暴なる蕃人部落をなせり。此間を管轄せる二廳の内。宜蘭廳は北端臺北縣の境なる宜蘭に。臺東廳は南端臺南縣の境なる卑南にあり。

澎湖別島を管轄せる澎湖廳は。島の南岸媽宮城にあり。以上を臺灣の重なる都邑とす。

次に島内交通の有様をいはむ。鐵道は。臺北を起點として東北基隆に達し。西南新竹を経て香山港に至れり。これ劉銘傳の起したる所なるが。全體の構造不完全にして殆ど鐵道の用を爲さざりしを。我版圖に歸してより銳意改良を計りしかば。今は此間の交通のみ大に便利となり。香山港より臺南までは鐵道の設計あれども開通に至らず。而して道路の如きは。河の常に乾きたるを幸として橋を架したる所なければ。一度雨ふれば交通全く止むの有様なりしを。これも我版圖に歸してよりは大に其不便を減じたり。淡水、安平、打狗、澎湖島間にはすでに電信の開通あり。此の如く我政府は交通機關の設計に力を用ふるといへども。日尙淺ければ未だ大なる成功を見ず。要するに今日臺灣の交通は。北部や、備はり。南部之に次ぎ。東部に至りては全く不通と稱すべし。

たるぞ。其兩大部の境をなすもの

六七六、東西兩部の面積を比ぶれば如何。また東部の地勢は如何なるぞ。合はせて原野の最も大なるものを問ふ。

六七七、西部の地勢は如何。

六七八、千島列島とはいかなるものをいふぞ。あはせて其東端なる占守島を語れ。

六七九、北海道の氣候如何をしるせ。

六八〇、北海道に於ける交通の有様を詳らかに述べよ。

六八一、渡島國の面積は幾許。また如何に區劃せられたるぞ。

六八二、渡島國は本道中いかなる國ぞ。

六八三、函館はいかなる港ぞ。其所在人口内外貿易の現状。ならびに街中の景況を示せ。

六八四、福山は何氏の城地たりし處ぞ。あはせて其位置を問ふ。

臺灣の氣候は温熱なれども。他の熱帶國の如く烈しからず。北部の諸山は冬季降雪を見らるゝ。殊に其臺南地方は。冬季は多く晴天にして寒冷を覺ゆることなく。夏季は驟雨多くして炎熱を洗ひ去り。大に人の健康に適せり。炎熱の最も強きは澎湖島にして。全島一の草木を生せず。

臺灣の住民に二大種別あり。一は支那より移住したるものにして。一は土人なり。土人を更に分ちて生蕃、熟蕃といふ。これ支那人の名づけたるところにして。熟蕃とは支那政府の命令を遵奉して。風俗習慣すべて支那人に感化せられ。耕作漁獵に従事して平穩なる生活

を營むものをいひ。生蕃とは凶暴野蠻にして首級を得ることを名譽とし。且支那人を敵視してしばしば襲撃を試むるものをいふ。生蕃、熟蕃共にもとは同種族なれども。一は多年支那人の感化を受けて其性を變じ。一は敵となりて益す其凶暴の性を増長し。遂に此大差を生ずるに至りしなり。わが總督府の命に抗して。しばしば暴行を逞うするも此生蕃なり。臺東、宜蘭二廳の管下は。此生蕃の巢窟を以て滿たざる。

臺灣は古來我國との關係少なからざりし地なり。上世の事は暫く措き。足利氏の末世は麻の如く亂れて人民其堵に安ずること能はざり

- 六八五、松前は何氏の城地たりし處ぞ。尋いで墳火灣を扼し室蘭と相對するところ及び其の所在を語る。
- 六八六、渡島國の岬および其方位をあげよ。
- 六八七、渡島國の岬の附近の灣を語れ。
- 六八八、後志國の面積及び區劃を問ふ。
- 六八九、後志國の地勢は如何。また如何なる地として聞えたるぞ。
- 六九〇、小樽はいかなる處ぞ。あはせて水陸運輸交通の現状。ならびに港内の有様を示せ。
- 六九一、壽都港は何の設けられたる處ぞ。また其位置は如何。
- 六九二、積丹半島ならびに其尖端を語り合はせて附近の諸港をあげよ。
- 六九三、石狩國は如何に區劃せられたるぞ。また其面積は幾許。
- 六九四、札幌は如何なる官廳のある處ぞ。あはせて其位置市街の景況。

しかば。九州其他沿海に住する勇悍の徒。志を外に伸べんと欲し。海を渡りて臺灣に抵り。此處を根據地として支那の南岸を侵せり。其船に八幡大菩薩の旗を樹てたりしかば。八幡船を稱して支那人の驚怖一方ならざりしといふ。後臺灣は和蘭人の占領に歸したり。寛永年中長崎の一人。臺灣の和蘭人に船品を擄掠せられしを。其友人濱田彌兵衛從者を率ゐて臺灣に渡り。謀を以て其王を取り押へ。償金を出ださしめ。人質を携へて歸れりとの物語は。吾人の聞きて快とする處なり。

後支那の明朝に於て今の清朝代に及び。明の遺臣鄭成功恢復を圖らんと欲し。書を幕府に上りて援兵を請ひたり。これ成功の母は日本人にして。父の子龍は久しく肥前の平戸に住みし緣故あるを以てなり。されども幕府は内外多事なりとて其請を許さざりしかば。成功遂に獨力にて兵をあげ。臺灣に據りて以て清に抗せしが。半途にして死したり。

明治四年。琉球の漂流民五十名臺灣生蕃のために殺されしかば。西郷從道をして之を討たしめ。また大久保利通を清國に遣し。償金を出ださしめたる事ありき。

明治二十七八年の役。清國連戦連敗して遂に講和を請ひ。償金を出

交通の有様をしるせ。

- 六九五、石狩の位置を問ふ。
- 六九六、本邦第一大河の名を示せ。合はせて其流程發源經過。および河流に於ける奇觀を語れ。
- 六九七、天鹽國の面積ならびに區劃をしめせ。
- 六九八、天鹽川を説明せよ。
- 六九九、増毛港の位置および其海中の島嶼をあげよ。
- 七〇〇、天鹽國の海邊は何を以て名高きぞ。
- 七〇一、天鹽國には大いなる市街ありや。また邑の聞えたるものは如何。
- 七〇二、北見國の面積及び區劃を問ふ。
- 七〇三、北見國に於ける人口の粗密及び土地は如何。
- 七〇四、北見國の湖水を語れ。
- 七〇五、北見國の海岸を詳らかに語れ。
- 七〇六、北見國にて聞えたる村をあげよ。
- 七〇七、膽振國の面積は幾許。また如何に區劃せられたるぞ。

だし臺灣を我國に納れたり。こゝに於て此地全くわが版圖に歸し。拓殖の業着々として其歩を進むると。ひとへに今上天皇陛下の御英略に外ならざるなり。仰ぎても仰がざるべけんや。

臺灣の物産は。

砂糖	樟腦	藍	茶	石炭
米	麥	落花生	木綿	甘藷
椰子	鳳梨	香蕉	檳榔樹	珊瑚
雞	鵞	鹿	水牛	豚

などを其重なるものとす。

- 七〇八、膽振國の湖水をあげよ。
- 七〇九、膽振國の岬及び港を語れ。
- 七一〇、日高國の面積ならびに區劃を問ふ。
- 七一一、日高國の地勢を問ふ。
- 七一二、日高國の氣候ならびに生業は如何。あはせて邑のあらはれたるものをあげよ。
- 七一三、日高國の海岸を語れ。
- 七一四、十勝國の面積は幾許。其區劃は如何。
- 七一五、十勝國の河流ならびに氣候を語れ。
- 七一六、十勝國の地味都邑及び人口は如何。

- 七二七、釧路國の面積及び區劃を問ふ。
- 七二八、釧路國の湖水をあげよ。
- 七二九、釧路國の河流を語れ。
- 七三〇、釧路國の海岸をしるせ。
- 七三一、釧路國の氣候をしるせ。
- 七三二、釧路國の港をあげよ。
- 七三三、釧路港はいかなる港ぞ。合はせて其輸出品の重なるものを問ふ。
- 七三四、根室國は如何に區劃せられたる乎。其面積をしるせ。
- 七三五、根室國の大きさは如何。
- 七三六、根室國の岬灣を列記せよ。
- 七三七、花咲港ならびに根室港の所在を問ふ。
- 七三八、根室港はいかなる港ぞ。あはせて其人口及び貨物輸送の景況をしるせ。
- 七三九、根室港には何の設ありや。あはせて函館との距離及び冬季の景況を問ふ。
- 七四〇、千島國は早くより如何なる事蹟を以て世には喧傳せられたりや。
- 七四一、千島はもと何國の所領たりしぞ。而して我國の版圖に屬したる當時の歴史を語れ。

- 七三二、千島國はいかなる土地をいふぞ。
- 七三三、千島國の重なる島の名をあげよ。
- 七三四、千島國に於ける無人島をしめせ。
- 七三五、千島國の海岸は船舶を通ずるに當りていかなる影響を與ふべきぞ。また海岸には如何なる利獲を有するぞ。
- 七三六、千島國の面積は幾許。また如何に區劃せられたるぞ。
- 七三七、千島の人口をあげ合はせて人烟の粗密をしるせ。
- 七三八、北海道の物産及び生業を洩らすしるせ。
- 七三九、北海道はいかなる漁場として聞えたるぞ。
- 七四〇、臺灣に於ける日戰戰爭以來の歴史を語れ。
- 七四一、臺灣の方位をしるせ。
- 七四二、臺灣の成立面積ならびに大きさを問ふ。
- 七四三、臺灣の本島は如何なる形を成したるぞ。また其地勢は何によりて二分せらるる乎。
- 七四四、臺灣本島に於ける西部の地勢を詳らかに語れ。
- 七四五、臺灣本島に於ける東部の地勢を洩らすしるせ。

- 七四六、生蕃人なるものは何によりて敵を防ぐや。
- 七四七、臺灣本島に於ける中央山脈の脊梁を成したる山は何といふぞ。
- 七四八、新高山なる名稱はいかにして名づけられたるぞ。其高さは富士山と何れかまさるる。
- 七四九、臺灣本島の北部に於ける最も高き山は何くぞ。合はせて其高さを示し及び自餘の山岳の大要を語れ。
- 七五〇、臺灣本島の河海を問ふ。
- 七五一、臺灣本島の海岸はいかなる形をなしたるぞ。
- 七五二、基隆淡水の二港はいかなる港ぞ。あはせて其所在を問ふ。
- 七五三、三貂角の歴史及び其方位を示せ。
- 七五四、臺灣本島に於ける東海岸の形及び其所在の港をしるせ。
- 七五五、臺灣本島に於ける西海岸の有様ならびに其所在の諸港を語れ。
- 七五六、臺灣本島の南端に於ける岬灣をしるせ。
- 七五七、臺灣海峡とはいかなる處をいふぞ。あはせて澎湖列島の所在をしるせ。

- 七五八、澎湖列島は何々の島嶼より成りたるぞ。合はせて澎湖島の歴史ならびに其の所在の港を語れ。
- 七五九、臺灣の氣候をしめせ。
- 七六〇、臺灣の人口は幾許。また人民は幾種に分れたるぞ。
- 七六一、移住支那人とはいかなる人民をいふぞ。蕃人とはいかなる人民をいふぞ。
- 七六二、蕃人の二種及び其自然の區別を示せ。
- 七六三、生蕃とはいかなる謂の名ぞ。合はせて其風俗を問ふ。
- 七六四、熟蕃とはいかなる謂の稱ぞ。合はせて其風俗を語れ。
- 七六五、臺灣が支那の屬國たりし時は如何に區劃せられ如何なる統轄を受けたりし乎。
- 七六六、我國の版圖に屬してより。臺灣は如何なる統轄を受けつゝあるぞ。
- 七六七、臺灣總督府は何地に置かれたる乎。また臺北府とはいかなる地の稱なりや。
- 七六八、府城はいつ頃の建築に成りたりや。また其周圍及び市街の景況は如何。

- 七六九、艦舢の位置及び市街の景況を問ふ。
- 七七〇、大稻埕の位置ならびに市街の景況を語れ。
- 七七二、臺北府に於ける總人口をあげよ。
- 七七二、基隆はいかなる港ぞ。合はせて其位置歴史ならびに交通機關をしるせ。
- 七七三、淡水港はいかなる港ぞ。あはせて其位置人口港内の有様及び輸出品をしるせ。
- 七七四、宜蘭蘇澳及び新竹は各いかなる處ぞ。および其位置を問ふ。
- 七七五、臺灣府はいかなる區劃をいふぞ。その府城は何れの方位にありていつ頃の建築に係れりや。
- 七七六、彰化の位置人口ならびに鹿港の所在景況を問ふ。
- 七七七、臺南府の位置は如何。又その府城は如何なる處ぞ。合はせて其沿革人口ならびに市街の有様を示せ。
- 七七八、安平港はいかなる港ぞ。合はせて其輸出品及び港内の有様をしるせ。
- 七七九、嘉義の人口は幾許。および其産物と位置とは如何。

- 七八〇、打狗港はいかなる港ぞ。合はせて其位置及び輸出品を問ふ。
- 七八一、馬公港はいかなる港ぞ。あはせて港内の有様をしるせ。
- 七八二、安平港打狗港及び打狗港の外にて臺南府に屬する港をあげよ。
- 七八三、臺灣の産物を詳らかにしるせ。
- 七八四、臺灣に於ける交通の現状を問ふ。

通俗日本地理終

明治三十三年六月廿三日印刷
明治三十三年六月廿日發行

通俗日本地理

定價金三拾錢

著者

大和田建樹

發行者

大橋新太郎

印刷者

東京市京橋區宗十郎町拾五番地
松本 魁

印刷所

東京市京橋區宗十郎町拾五番地
國文社



發兌元

東京市日本橋區本町三丁目 博文館

行發回壹月每

通俗百科全書

全五部拾冊 正壹拾金 郵五錢 稅拾錢 第八冊以下 正三錢

日新百般の學術を講明し、社會智識の開拓を計る者、是れ我が一國の通俗百科全書に即ち最も實用有益なる通信講義録たり、最も懇篤なる朋友たり、最も親篤なる師たり、而して本書は著者各々の得意の科目を撰びて、資料既に精詳にして有用の種目悉く備はる、されば文明日新の智識を得んと欲する士は、必ず一部を座右に備へざる可らず。

既刊目次

- 第一編 通俗日本歴史 足立 栗園君編
- 第二編 通俗世界歴史 長谷川誠也君編
- 第三編 通俗明治歴史 坪谷善四郎君編
- 第四編 通俗德川十五代史 岸上 操君編
- 第五編 通俗文學汎論 奥村信太郎君編
- 第六編 通俗倫理學 足立 栗園君編
- 第七編 通俗法學汎論 法學士桐生政治君著
- 第八編 通俗商業簿記 高橋邦次郎君著
- 第九編 通俗政治汎論 高橋邦次郎君著
- 第十編 通俗英語案内 鳥谷部鏡太郎君編
- 第十一編 通俗英語學 石川辰之助君著
- 第十二編 通俗銀行簿記 宮田 修君著
- 第十三編 通俗社會簿記 窪川 眞澄君著
- 第十四編 通俗經濟汎論 高橋邦次郎君著
- 第十五編 通俗工簿記 香山青次郎君著
- 第十六編 通俗理化一斑 高橋邦次郎君著
- 第十七編 通俗日本地理 藤野 修吉君著

續刊

- 第十八編 通俗文章學 宮川鐵次郎君著
- 第十九編 通俗世界地理 津江 保君著
- 第二十編 通俗動物學 河村 守隆君著
- 第二十一編 通俗幾何學 相良 長三君著
- 第二十二編 通俗代數學 津田 素彦君著
- 第二十三編 通俗獨逸史 河上 清君著

理學士 佐藤傳藏君著

日本新地理

全壹冊

本邦の天然地理、人事地理、地方誌の三項

最新の事實に據り、確實の統計を本とし、巧妙の組織簡潔の叙述、意到筆隨ひ、暇を留くして餘蘊なし、彼の專著北海道上に至つては立論奇抜にして説明詳密中等教育の參考書教科書として、世に其比類あるを見ず、本邦に生れて、此邦土の何たるを知らんとするの士は請ふ一本を購讀せんことを望む

目次

- 第一編 日本人文地理
- 第二編 政治區劃
- 第三編 土地及人種
- 第四編 交通
- 第五編 商業
- 第六編 社會
- 第七編 宗教
- 第八編 政治
- 第九編 教育
- 第十編 政治區劃
- 第十一編 土地及人種
- 第十二編 交通
- 第十三編 商業
- 第十四編 社會
- 第十五編 宗教
- 第十六編 政治
- 第十七編 教育
- 第十八編 政治區劃
- 第十九編 土地及人種
- 第二十編 交通
- 第二十一編 商業
- 第二十二編 社會
- 第二十三編 宗教
- 第二十四編 政治
- 第二十五編 教育
- 第二十六編 政治區劃
- 第二十七編 土地及人種
- 第二十八編 交通
- 第二十九編 商業
- 第三十編 社會
- 第三十一編 宗教
- 第三十二編 政治
- 第三十三編 教育
- 第三十四編 政治區劃
- 第三十五編 土地及人種
- 第三十六編 交通
- 第三十七編 商業
- 第三十八編 社會
- 第三十九編 宗教
- 第四十編 政治
- 第四十一編 教育
- 第四十二編 政治區劃
- 第四十三編 土地及人種
- 第四十四編 交通
- 第四十五編 商業
- 第四十六編 社會
- 第四十七編 宗教
- 第四十八編 政治
- 第四十九編 教育
- 第五十編 政治區劃
- 第五十一編 土地及人種
- 第五十二編 交通
- 第五十三編 商業
- 第五十四編 社會
- 第五十五編 宗教
- 第五十六編 政治
- 第五十七編 教育
- 第五十八編 政治區劃
- 第五十九編 土地及人種
- 第六十編 交通
- 第六十一編 商業
- 第六十二編 社會
- 第六十三編 宗教
- 第六十四編 政治
- 第六十五編 教育
- 第六十六編 政治區劃
- 第六十七編 土地及人種
- 第六十八編 交通
- 第六十九編 商業
- 第七十編 社會
- 第七十一編 宗教
- 第七十二編 政治
- 第七十三編 教育
- 第七十四編 政治區劃
- 第七十五編 土地及人種
- 第七十六編 交通
- 第七十七編 商業
- 第七十八編 社會
- 第七十九編 宗教
- 第八十編 政治
- 第八十一編 教育
- 第八十二編 政治區劃
- 第八十三編 土地及人種
- 第八十四編 交通
- 第八十五編 商業
- 第八十六編 社會
- 第八十七編 宗教
- 第八十八編 政治
- 第八十九編 教育
- 第九十編 政治區劃
- 第九十一編 土地及人種
- 第九十二編 交通
- 第九十三編 商業
- 第九十四編 社會
- 第九十五編 宗教
- 第九十六編 政治
- 第九十七編 教育
- 第九十八編 政治區劃
- 第九十九編 土地及人種
- 第一百編 交通

金壹冊 並製卅五錢 上製五十錢 郵稅十錢 菊判洋裝

理學士 佐藤傳藏君著

萬國新地理

全壹冊

嗚呼萬國新地理 生れたり、何か故に生れて、新地理學の要領を語らんか爲なり。最新の統計、最新の事實、最新の仕組を中等教育に向つて、大に告ぐる處あらんが爲めなり。亞細亞——支那——朝鮮及南洋は本書の骨髄なり特色なり來つて此寧馨兒を見よ、日本新地理の眞兄弟姉妹たる此萬國新地理を見よ。今本書の總目を掲げて購客の便覽に備ふ

目次

- 第一編 亞細亞總論
- 第二編 亞細亞地理
- 第三編 亞細亞人文地理
- 第四編 亞細亞政治
- 第五編 亞細亞經濟
- 第六編 亞細亞社會
- 第七編 亞細亞宗教
- 第八編 亞細亞政治
- 第九編 亞細亞教育
- 第十編 亞細亞政治區劃
- 第十一編 亞細亞土地及人種
- 第十二編 亞細亞交通
- 第十三編 亞細亞商業
- 第十四編 亞細亞社會
- 第十五編 亞細亞宗教
- 第十六編 亞細亞政治
- 第十七編 亞細亞教育
- 第十八編 亞細亞政治區劃
- 第十九編 亞細亞土地及人種
- 第二十編 亞細亞交通
- 第二十一編 亞細亞商業
- 第二十二編 亞細亞社會
- 第二十三編 亞細亞宗教
- 第二十四編 亞細亞政治
- 第二十五編 亞細亞教育
- 第二十六編 亞細亞政治區劃
- 第二十七編 亞細亞土地及人種
- 第二十八編 亞細亞交通
- 第二十九編 亞細亞商業
- 第三十編 亞細亞社會
- 第三十一編 亞細亞宗教
- 第三十二編 亞細亞政治
- 第三十三編 亞細亞教育
- 第三十四編 亞細亞政治區劃
- 第三十五編 亞細亞土地及人種
- 第三十六編 亞細亞交通
- 第三十七編 亞細亞商業
- 第三十八編 亞細亞社會
- 第三十九編 亞細亞宗教
- 第四十編 亞細亞政治
- 第四十一編 亞細亞教育
- 第四十二編 亞細亞政治區劃
- 第四十三編 亞細亞土地及人種
- 第四十四編 亞細亞交通
- 第四十五編 亞細亞商業
- 第四十六編 亞細亞社會
- 第四十七編 亞細亞宗教
- 第四十八編 亞細亞政治
- 第四十九編 亞細亞教育
- 第五十編 亞細亞政治區劃
- 第五十一編 亞細亞土地及人種
- 第五十二編 亞細亞交通
- 第五十三編 亞細亞商業
- 第五十四編 亞細亞社會
- 第五十五編 亞細亞宗教
- 第五十六編 亞細亞政治
- 第五十七編 亞細亞教育
- 第五十八編 亞細亞政治區劃
- 第五十九編 亞細亞土地及人種
- 第六十編 亞細亞交通

全壹冊 並製卅五錢 上製五十錢 郵稅十錢 菊判洋裝

公爵近衛篤磨君題辭 (十版)
權典侍千種任子君題辭
大河内一子刀自題辭 櫻庭宣村君序文

旅行案内

全壹冊正
價金廿錢
郵稅六錢

本書は遊學旅行者は勿論、温泉巡遊者、山水吟詠者の須臾も座を離すべからざる、重寶無二の奇書にして、山水の位置、名所、舊跡の存在、旅行用心集など精細に記載しあれば、世の紳士淑女一の好伴侶なり。

寫眞銅版繪

- 宮城二重橋 ●伊勢大神宮 ●日光神橋 ●日光陽明門 ●伊豆代田 ●奈良春日神社 ●信州木曾 ●谷城 ●金澤 ●豊前宇佐八幡宮 ●紀州八丁 ●北海 ●光寺 ●上州妙法山 ●宮土白糸 ●相州箱根塔 ●伊州 ●土川橋 ●防州岩倉 ●江州三井寺 ●相州箱根塔 ●伊州 ●大州 ●瀨州興津清水寺 ●臺灣淡水河

英國海軍大尉エム、リード氏著 (袖珍美本)
日本 櫻井 鷗村君譯補 (三百餘頁)

初航海

全壹冊洋
裝正價金
廿五錢郵
稅金六錢

勇壯少年の冒險談として面白きこと此書の如きもの恐くは天下になかるべし今や三版を出版せり

發賣元 博文館

東京市日本橋區本町三丁目

慶應義塾々々長鎌田榮吉君著

歐米漫遊雜記

全壹冊

▲正價金四拾五錢 郵稅八錢

著者往年歐米に遊ぶこと年餘其歷程の廣汎なる、其觀察の細微なる他に其比を見ず、隨觀隨録したるもの今之を一巻に收輯す、英米獨佛露伊其他各邦の文物典例國勢は勿論博物館美術館劇場著名なる建物舊跡名蹟等仔細に叙述して餘蘊なし、加ふるに著者が齎らせる珍奇なる寫眞十數葉を挿入す、最近歐米旅行案内として必讀の新書なり。

東京市日本橋區本町三丁目

發兌元 博文館

中等教育 萬國地圖 日本地理

理學士 佐藤傳藏君著

本書は最新なる趣向を以て編成す、其精確なる素より論を俟たず、且つ其十二頁四十八所の風景寫眞版は鮮麗精緻具さに全國各地の風景産業の情況を描出し、學生をして地理學の活智識を得せしむるなり。

理學士 佐藤傳藏君著

本圖は舶來原書の精圖によりて萬國の形勢山嶽河海の地圖細大洩らさず編纂したるもの常に鮮明なるのみならず其説明の確實詳細なるは固く保證する所なり。

正價六拾錢郵稅八錢

侯爵伊藤博文君 伯爵井上馨君 侯爵山縣有朋君 子爵品川彌次郎君 古俠生水田榮雄君著

大英國漫遊實記

全壹冊洋裝
上製頗美本
紙數七百頁

▲正價金七拾錢 郵稅金八錢

英國が世界第一の富強國たる根本は何ぞや、此の書著者が滿三ヶ年間、千辛萬苦、前人の未だ入らざる所に入り、未だ見ざる所を見て英國富強の根本を究め各地工業繁榮の實況を細寫し、精微透徹、讀む人をして身自から英國に遊び、各工場の内外部を巡視するの感あらしむ、尙英國風俗の真相、名士の訪問記等得易からざる記事多し山縣侯本書に題して『平和之戰爭』といひ、井上伯は『思慮遠』といへり日本立國の急務、工業振起にあり本書が今の時勢に必讀の良書たる多言を要せじ。

發兌元 博文館

東京市日本橋區本町三丁目

賜 天 覽
 長岡子爵詩題 黑田侯爵詩題
 大橋乙羽生著 末松男爵詩序
 文

補 增
千 山 萬 水

全書冊洋裝袖珍類美本
 本書は辱くも九重の御覽を賜ふの榮を得、發售以來忽ち第拾版を重ねるの運に會したるは、今般更に大増訂を企て、中國九州一帶の案内記六十國と其地風俗寫眞三十二ヶ所とを加へ、且つ旅人智慧の板で新遊戯をも挿みて、初版以來紙數百五十餘頁を増加し、一層釘裝を美にしたれば、之に優れる旅行案内はあらざるべし。
 正價金五拾錢 郵税金拾錢

伊藤侯爵詩題 土方伯爵詩題
 大橋乙羽生著
續 千 山 萬 水

全書冊洋裝袖珍類美本
 東洋古來第一の美本として、内外の喝采を博したる千山萬水は、其記する所の地、東北に止まりしを、烟霞の癖は更に著者をして東海畿内中國西南より北陸諸州と跋渉せしめぬ、是に於てか續編あり、之を初編に比するに、經し所廣きに從つて寫眞に上れる絶景亦頗る多し。裝幀の美麗亦優るとも劣るとなし。
 正價金五拾錢 郵税金拾錢

田山花袋君著
南 船 北 馬

全壹冊洋裝袖珍類美本
 正價金四拾錢 郵税金六錢

隨處に感興を作り到る處に詩想を著するは花袋子の紀行文なり、と氏は語勝のみに富みて殘山剩水處として至らざるなく處として探らざるなれば、その紀行文には珍奇話百出、或は熱瀾岩を噴く、或は深山の夜、或は湖畔など、他の紀行文には見ざるべからざるの如き、其行文中には、熊野紀行の如き、其精彩の躍々たる眞に一幅の寫眞圖なり、山水の癖あるもの、自然の懷に懷かれんとするもの、人世の不平を抱けるもの、皆一讀せよ、必ず得る所慰めらるる所あらん。
 發兌元 東京日本橋區三丁目博文館

楠本男爵詩題 西島貞良君著
清 國 一 斑

全壹冊洋裝袖珍類美本
 正價金廿五錢 郵税金六錢

著者清國に遊學すること五年、吳越を跋渉し、江漢を上下し、其風土人情細微を探究し、深く内勢の如何を觀察し、蒐録此一編をなす、今や東亞の風雲漸く急に、歐西列強の漸く死活的の危機に瀕するは、清國の現狀なり。利害得失の關係する處、本邦人士たらんもの、何人も其真相を知らんことを欲する所、此書能く老清帝國の實情を悉くして餘蘊なし、江湖の諸彦須らく一讀せしめて可ならんや

巖谷漣山人著 (隔月壹回發行)

幼 年 讀 本

▲每編著名畫伯密畫挿入類美本
 一冊金拾五錢六
 冊前金六拾五錢
 郵税一冊四錢

第壹編 **日 本 歷 史**

全壹冊
 梶田半古 畫

日本歴史一何が其名の陳腐なる。幼年讀本一何が其名の斬新なる。この斬新なる幼年讀本は、其斬新なる筆調を以て、彼の陳腐なる名の下に、陳腐なる材料を編纂す。僅か百六拾頁の内を以て、よく三千年の歴史を、三才の童子をして尚且つ我邦の國體を詳かにせしむ。所謂故を温ねて新を知るとは、夫れ是の謂乎。

第貳編 **日 本 地 理**

全壹冊
 水野年方 畫

山川は、嬰我房と云ふ仙人は、千里の途を一尺に縮めたやう。今山の大、都鄙の多き、一つも漏れた所が無い。若し夫れ、父母の膝に抱かれながら、京大阪の妙を見んと思ふと、此書に就いて、日本地理を、知り給へと白す。

第參編 **世 界 歷 史**

全壹冊
 中村不折 畫

世界各國、湖嶽に一萬年をうんとす。其間の出来事、僅に百四十頁以内にて、大要漏す所無く、而も行文の平易なる、三尺の童子讀解す可く、一氣讀去れば、一萬年間の事、眼前に歴然たり、是れ作者が苦心の存する所にして、文作者が特有の技能とす。

法學士 永井惟直君著

商 工 地 理 學

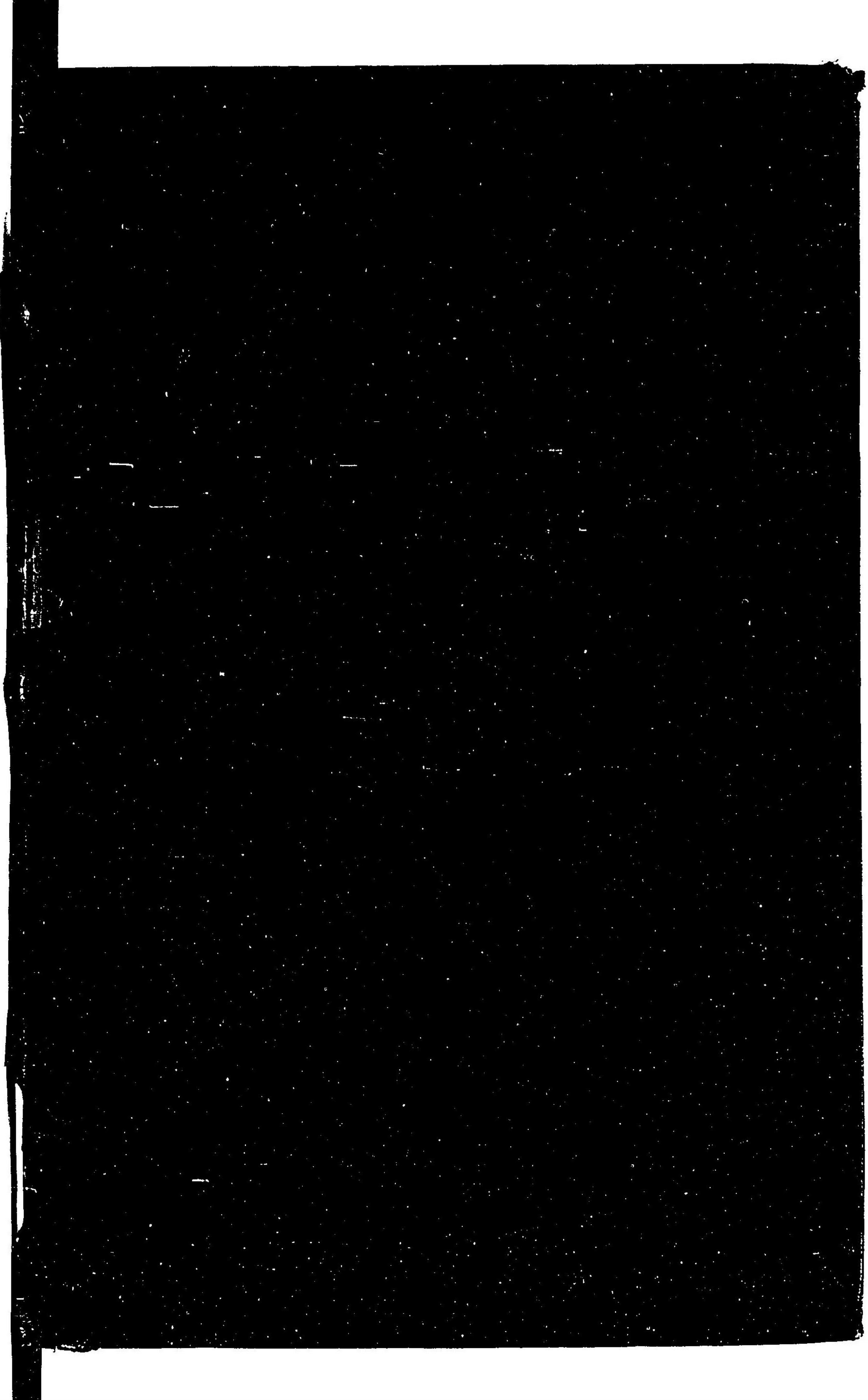
▲正價 上製金五拾錢 郵税拾錢
 並製金卅五錢 郵税八錢

全壹冊
 菊 判
 洋裝美本

國家の盛衰は商工業の盛衰に因るもの多く、商工業の盛衰は、國土の地勢と位地とに由るもの多し。是れ商工地理學の研究の最も必要にして、且つ趣味多き所以なり、著者久しく東西の地理と商工業歴史との關係を窮め、氣候風土、地勢、人種、人口等の商工業に及ぼす影響にまで論究し、此學の爲めに一生面を開きたるもの即ち此書なり。

發兌元 東京日本橋區 博文館
 本町三丁目

78
5



78
5

022692-000-7

78-5

通俗日本地理

大和田 建樹/著

M33

ADB-0468



